



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一七年
Citation	北大百年史, 史料(一), 669-736
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30103
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo1_p669-736.pdf



明治一七年

五三〇 農芸化学物理学教師を外国より雇入の件回答

校第六号

外国教師一名雇入相成度ニ付テハ学課都合可申越旨御電報之趣了承
 当時差支候ハ化学ト物理学天文学及地質学ニ有之候処地質ハ不日赴
 任スルモノト仮定スルトキハ農芸化学及物理(天文初歩ヲ含ム)教
 授全ク欠乏致居候ニ付一名ニシテ右兼務ニ堪フル人物撰任候得ハ最
 モ好都合ニ候ヘ共万一差支候節ハ農芸化学教授ニシテ地質金石学ヲ
 兼候モノヲ雇入レ物理学ハ日本人ニテ教授セシメ候様致度本課少ナ
 キ節ハ橘教授ニ於テ担当差支無之由ニ候条此旨及御回答候也

明治十七年一月卅一日

幹事井川冽[㊤]

校長森源三殿

追伸從來ベンハロー等ハ単ニ化学ヲ教授候故實際ニ不便之廉モ有
 之候ニ付新任之モノハ農芸化学ナルモノ可然旨教員中ヨリ申出モ
 有之候条右ニ御相成度候也

〔農〇一八〕

五三一 歩兵操練科卒業証書授与の儀^{〔註〕}

明治十七年二月十二日

御用掛小林源蔵印

卿印

輔

書記官印

管理局長印

札幌農学校ニ於テ歩兵操練科卒業証書ヲ授与スル義ニ付伺

札幌農学校長

右審按候処札幌農学校学科中ニ從來兵学ノ一科ヲ置キ尉官一名ヲ其
 教員トシ歩兵操練術教授致来リ候ヘトモ其卒業証書ハ農学士ノ学位
 ヲ与フルニ止マリ候慣例ニシテ兵学科ノ卒業ハ証書面ニ明記無之然
 ルニ已ニ改正徴兵令総則第十二条中ニ官公立学校ノ歩兵操練科卒業
 証書ヲ所持スル云々ノ明条モ有之其卒業者タルヲ表証スヘキ設ケ無
 之候而者不都合ナルヨリ今後ハ改テ農学士ノ学位ト歩兵操練科^{〔マ〕}卒業
 業ノ証トヲ区分シ与ニ之ヲ授与セラレ候様致度トノ趣意ニ有之就テ
 ハ其卒業証書ヲ与フル手續并書式等予メ陸軍卿ヘ御照会相成本校規
 則書中該操練科卒業証書ノ書式相補ヒ可然哉左ニ御照会按取調参考
 書類相添此段相伺候也

〔註〕

但別紙森農学校長上申書中歩兵操練術ノ学科ハ教員ニ於テ心得居
 候旨ニ付別段御問合ニ及ヒ申間數單ニ証書ヲ授与スルノ手續并其
 書式ノミ御照会相成可然見込ニ候条此段副申候也

印 整 査 課 印 印 印

按

当省所轄札幌農学校生徒教則中從來兵學ノ一科ヲ置キ尉官ヲ其教員トシ歩兵操練術ヲ授ケ学期末ニ至リ及第者ヘハ農學士ノ証書ヲ与ヒ来リ候処今後ハ該操練術卒業ノ証ヲモ併セテ授与スルコトニ更正致候旨ニ候間兼テ御承知相成度就テハ其証書式此際当省ニ於テ相定度候条御差支無之候ハ、御省御授与ノ書式参考迄ニ至急御示シ有之度御心得ノ為メ別紙農学校教則写相添此段及御照会候也

年 月 日

農商務卿

陸軍卿宛

〔注一〕 冒頭欄外に朱書で「陸軍省二月十九日達済」とあり。

〔注二〕 別紙上申書を欠く。

〔農〇一八〕

五三二 化学教授として外国人一名雇入の儀伺

乾理第四八号

札幌農学校教授トシテ外国人雇入之義伺

当省所轄札幌農学校化学教授欠員ニ付後任採用之為メ文部省其他ヲモ搜索候処適當之者無之加物理地質ノ二科モ相当之教員ヲ欠キ候場合ナレハ此際右学科ヲモ併セテ担任候外国人一名備入度元来同校

ハ米國マサチユセツ、農学校之規模ニ倣イ教員ハ当初ヨリ同校ニテ卒業セシ米國人ヲ聘シ来リ候義ニ付此回モ同校卒業之者ヲ撰ヒ化学其外教科ノ教員トシテ年俸正貨凡三千円以内ヲ以テ条約取締度右ハ万事同軌之組織ヲ以テ創立セシ農学校ニ付授業上便宜不尠候且俸給旅費其外諸費之義ハ十六年度ニ係ル分ハ勿論十七年度之義モ他ノ費用ヲ節減シ悉皆当省北海道事業管理局經費ヨリ支辨之見込ニ候条至急允可相成度此段相伺候也

明治十七年二月廿三日

農商務卿西郷從道

太政大臣三条実美殿

〔朱書〕
「伺ノ趣聞届候事」

明治十七年三月六日

〔公文録三七七九〕

五三三 新聞広告等のため生徒募集人員期限等報知方申入

（二月二十六日起案）

札幌農学校学生招募之儀ニ付同校長へ御達按

其校新学生東京ニテ招募之分ハ毎年広告切迫ニ付応募者僅少ニテ常ニ予定之人員ヲ得ル能ハス右ハ志願者有之候テモ或ハ聞及ハサル者ナキニアラス就テハ前以テ広告シ有志輩ヲシテ其期ヲ知ラシメ或ハ之ヲ目的トシテ勉学セシムル時ハ招募之全数ヲ得ル難カラスト存候

条本年モ当地ニ於テ募集之儀ニ候ハ、其人員期限等御報告有之度然
ル時ハ預シメ新紙ヘ広告且各予備学校等ヘモ通知致置キ期限ニ至リ
無差支様可取計候此段申進候也

十七年二月

局長代理

札幌農学校長宛

〔農〇二〇一〕

五三四 札幌農学校等徴兵令第一八条第三項に相当の件伺

乾書第四号

駒場農学校外三校位置ノ義伺

当省所轄駒場農学校東京山林学校東京商船学校札幌農学校位置ノ儀
昨十六年第四拾六号布告徴兵令第十八条第三項ニ相当候義ト心得候
得共為念相伺候条至急仰允裁候也

明治十七年三月五日

農商務卿西郷従道

太政大臣三条実美殿

〔本書〕
「伺」趣徴兵事務条令第百三十三条ノ通可相心得事

但山林商船ノ二学校ヘ徴兵令第十八条第三項ニ依ルノ限ニ在ラ

ス

明治十七年八月十六日

〔農一二五〕

五三五 歩兵科教則に付回答案(三月七日起案)

校第十九号

歩兵科教則之義ニ付鈴木大書記官ヘ御回答案

歩兵科教則之義ニ付本月五日付再応電信之趣敬承該科ハ本校諸學課
中之一科目ニ付精細ナル順叙教則等モ無之候得共初年ヨリ卒業迄実
際教授シ来リ候科目ハ別紙之通りニ有之候間右ニ御承知相成度此段
御回報申進候也

年月日

校長名

鈴木大書記官宛

〔別紙〕

初年生 一週二時間ツ、

体操 生兵 小隊運動

二年生 同 二時間

体操 生兵 小隊運動 中隊運動 生徒輪回号令

三年生 一週二時間

体操 中隊運動 生徒輪回号令 大隊運動法口授

地形ニ応スル撤兵法口授

四年生 一週二時間

体操 中隊運動 輪回号令 行軍哨兵戰鬥法ノ大略口授

兵学摘講 野戦砲使用法

〔農一〇三〕

五三六 耕牧社へ牛払下の旨上申

学第三拾号

淡沢栄一等設立ノ耕牧社よりアキシヤ種牛払下出願之義ニ付テハ情願之次第も有之尚ホ實際之都合取調差出ヘキ旨北直物第貳三号ヲ以テ御達之趣キテ承就テハ校園ニ於テも昨年来より該牛種増殖候ニ付成ル丈都合繰合セ願意ニ応ズル様為取調候処出願之通り胤牛老頭牝牛三頭ハ到底払下難致候ニ付牝牝各々年齢一ケ年二三ケ月ノモノ老頭宛払下致ス様取計候代価之義ハ老頭ニ付金七拾五円ニ有之候牽渡シ方ハ御達之次第茂有之候ヲ以テ何分之御指令相成迄校園ニ於テ畜養為致置候条此段上申候也

明治十七年五月一日

農学校長森源三

管理局長安田定則殿

〔農一五〇〕

五三七 学位授与制限の儀伺^{〔注〕}

北校庶第四号

学第廿七号

本校卒業生之義従来総テ学位ヲ授与致来候処東京諸大学ニ於テハ追々制限ヲ立テ候ニ付本校ニ於テモ爾来平均七拾五点以上ノモノニ限リ其以下ハ単ニ証書ヲ附与候様致度此段相伺候也

明治十七年五月三日

札幌農学校長森源三^{〔印〕}

管理局長安田定則殿

追伸目今在学ノモノハ次学期ノ点ヨリ七拾五点ヲ以テ通算シ既往ノモノハ従来之点ニテ施行致度候也

〔注〕 本伺は一八年三月に返戻された。五八六を参照。

〔農一二四〕

五三八 荒川重秀佐藤昌介の官費留学生切替に付所感

Boston, May 10th 1884.

Hon. D. Sudzuki,

Daishoikwan,

Department of Agriculture & Commerce,

Tokio, Japan.

My dear Sir:-

It gave me much pleasure to receive your letter of 23d day, 2d month, 17th year of Meiji, wherein you informed me that your government has granted aid to Messrs Arakawa and Sato "under

special consideration." It will afford them all necessary support in their efforts to extend their knowledge and training for their country's service, and I sincerely hope that they will show, after they return to that service, that the assistance of the government was wisely allowed and profitably applied, in its own interests. I am glad to hear that the Agricultural College at Sapporo is "in good order and flourishing." I have never lost the lively interest which I acquired in the progressive measures adopted by your country, while I had the pleasant honor of being in its service, and my thoughts often recur with happy recollections to the pleasant relations and acquaintances which attended my four years life there.

I have even indulged the regret, at times, that I did not longer avail myself of the invitation then extended to me to continue longer in the service of your government.

Thanking you for your kind letter, and wishing you health and happiness, I have the honor to remain,

Very Respectfully Yours,

Wm. Wheeler.

〔ホーラー九一〕

五三九 歩兵科卒業証書式等に付伺

北第第巻〇式号

学第三拾貳号

本校生徒歩兵科卒業証之儀ニ付北第第巻第一〇二号御達之趣敬承該書式へ陸軍省来意ノ通り士官学校等之如ク専ラ兵事ニ関スル學術ヲ卒業セシ者トヘ全ク其性質ヲ異ニシ且該証ヲ発スルノ趣意モ一ヘ徴兵令第拾貳条ニ原由候義ニ付別紙之通り書式相定可然哉且本校歩兵科之義明治十一年ヨリ教科中ニ相加ヘ爾来連綿今日ニ至ル迄実行シ来リ候義ニ付最前卒業候者ト雖トモ其本人之情願ニ依リ卒業年月ニ過リ該証狀下付シ可然哉此段相伺候也

明治十七年五月十五日

札幌農学校長森源三〔印〕

管理局長安田定則殿

追伸校則改正等之為々井川幹事且下出京中ニ付該則追加等之義へ同人ヨリ直接開申可為仕此段申添候也

〔本書〕
何之趣歩兵操練科卒業証狀之義へ追テ書式製定更ニ可相達候条先以テ伺出ノ書式ニ準シ仮ニ授与可致置事

但最前卒業者ノ請求ニ依リ証狀ヲ授与セントスル時へ本人ノ請求書并証書式相添其都度伺出候義ト心得ヘシ

明治十七年七月三日 管理局長安田定則〔印〕

〔別紙〕

生徒

何 某

歩兵操練科卒業候事

年	号	校
印	月	日

農商務省

札幌農学校

〔農一二六〕

五四〇 農学校附属地百万坪譲渡の儀に付伺

明治十七年五月廿二日

菱沼哲之助印

卿

輔印(品川)

書記官 印(宮島) 印(大機) 印(柳谷)

管理局長 印(安田) 印(鈴木)

地所譲渡之義伺

札幌農学校長

右ハ農学校附属地札幌郡篠路村及石狩郡花畔村ノ内ニテ百万坪譲受

度旨札幌県照会ニ対シ譲渡可然哉之段申出ニ有之検査スルニ北海道之農事ヲ奨励盛大ナラシムルハ一大要務夙ニ同道ニ農学校設立ノ本旨モ爰ニ外ナラス當適度ニ斟酌シテ事ニ先後アル勿論之義ニ而該附属地ノ未タ其儘相成候モ畢竟所用スヘキ事業ヲ他日ニ期シタルニ因ルモノニテ目下使用セサルヲ以伺出之如ク来意ニ応センハ前途本校ノ不都合ヲ釀シ可申ト被相考候間御許可無之方可然哉左ニ御指令按取調此段相伺候也

按

伺之趣ハ従前ノ通其校属地ト致シ置クヘキ事

年 月 日

管理局長

付 農学校附属地を札幌県へ譲渡の儀伺

学第貳拾九号

本校附属地札幌郡篠路村石狩郡花畔村之内ニテ荒蕪地凡百万坪之義ハ農校園内も追々荒地開墾ニ及ヒ蕃類も繁殖候ニ付尚ホ園内之規模〔マ〕擴張度見込ニテ嚮ニ本校附属相成居候処札幌県ヨリ別紙写之通り照会相成候ニ付テハ本校ニ於テ至急着手之見込も無之候依テハ更ニ本県へ譲渡シ候テ可然哉此段相伺候也

明治十七年四月三十日

札幌農学校長森源三印

管理局長安田定則殿

〔別紙〕

丑第二百拾一号

管下札幌郡篠路村石狩郡花畔村之内ニテ別紙略図面之荒蕪地凡百万

〔注〕

坪貴校附属見込地相成居リ候処未タ御着手ノ模様モ相見ズ自然急ニ御使用之運ニモ無之候ヘバ本県ニ於テ士族移住地トナシ本年ヨリ移住開拓セシムヘキ見込有之候条否至急御回答相成度此段及御照会候也

明治十七年四月十七日

札幌県令調所広丈印

札幌農学校長森源三殿

〔注〕 別紙を略す。

〔道〇八六一七〕

五四一 札幌県監獄署属地譲受の儀伺

学第三拾号

札幌県監獄署属地譲受之儀上申

一 札幌県監獄署属地

壹万坪

右者別紙図面之通創成川ト琴似川トノ環流内之農藝園属地中ニ頭書

〔注一〕

之地面入込居リ耕耘之不便ノミナラス旁垣柵等之入費モ不尠不都合

ニ付右地面譲受之儀札幌県ニ照会候処別紙写之通リ譲渡差支無之旨

〔注二〕

回答有之候ニ付譲受致度此段相伺候也

明治十七年五月廿四日

札幌農学校長森源三

管理局長安田定則殿

追テ本文御裁可ノ上ハ其筋ヘ御運方相成度添申候也

〔朱書〕 伺之趣聞届候事

但授受結了ノ上届出ヘシ

明治十七年九月十一日 管理局長安田定則

〔印〕

〔注一〕 別紙図面を欠ぐ。

〔注二〕 別紙を欠ぐ。

〔農一三二八〕

五四二 農学校規則改正の儀伺

〔注〕

本校規則之儀ハ旧開拓使制定之モノニシテ本省ヘ引続之後ハ使名ヲ省名ニ改候等ニ止マリ概ネ旧則ヲ襲用いたし来候処今日ニ至リ往々不便之嫌不少候ニ付今般別紙之通御改正相成度校長より委任ニ付此段上申仕候也

明治十七年五月廿七日

在京札幌農学校幹事井川列

〔印〕

管理局長安田定則殿

〔別紙〕

札幌農学校規則

〔朱書付箋〕

「農商務省所轄札幌農学校規則」

本校ノ主旨

第一条 札幌農学校ハ農商務省ノ所管ニシテ農事ニ関スル諸学科ヲ
教授スル所トス

第二条 本科ノ外別ニ予備科ヲ設ケ以テ本科ニ入ルノ階梯トス
〔朱書付箋〕
「課程ヲ分テ本科及予備科トス」

本科 入学退学

第三条 本科生徒ハ予備科ヨリ入ルヲ正規トス然レトモ其人員不足

ナルトキハ公告ヲ以テ召募スルコトアル可シ

第四条 新ニ入学ヲ願フ者ハ左ノ項目ニ応スルヲ要ス

第一項 年齢十六年以上ニシテ品行方正身体強壯ナル者

第二項 左ノ試験科目ニ合格ノモノ

英語（読書応対文法作文）

地理学及地文学 史学（万国史ノ類）

数学（算術代数幾何） 英文翻訳 漢学

第五条 入学志願者ハ第一号書式ノ願書及履歴書ヲ出シ其許可ヲ得

タルモノハ東京若クハ札幌ニ於テ一家計ヲ立ルモノ兩名ヲ保証人
トシ第一及四「号及第四」号書式ノ証書ヲ出ス可シ
〔朱書付箋〕

第六条 保証人族籍住所ヲ転シ又ハ姓名印章ヲ改ムルトキハ之ヲ届
出ツベシ

第七条 保証人死亡若シクハ東京札幌ノ外ニ転住スルトキハ直ニ代
人ヲ撰ヒ更ニ証書ヲ書改ムヘシ

第八条 生徒ハ授業料トシテ毎月初金五拾銭ツ、其校中ニ寄宿スル
モノハ別ニ衣食費トシテ金拾貳円ツ、納ムヘシ

第九条 生徒校則ヲ犯シ若クハ本校職員ノ説諭ヲ用ヒス又ハ学力不
足品行不正ニシテ在校セシムヘカラサルモノト認ルトキハ退校ヲ
命ス
〔朱書付箋〕

〔朱書付箋〕
第九条 左項ニ当ル者ハ退校ヲ命ス

一 病ニ罹リ修学スヘカラサルト認ル者

一 校則ヲ犯シタル者

一 本校職員ノ説諭ヲ用ヘサル者

一 学力不充ナル者

一 品行方正ナラサル者

第拾条 生徒病ニ罹リ修学スヘカラサルモノト認ルトキハ退校ヲ命
ス
學 曆

第十一条 学年ハ之ヲ二期ニ分チ第一期ハ八月第四木曜日ヨリ十二
月第四水曜日ニ至リ第二期ハ一月第三木曜日ヨリ七月第一水曜日
ニ至ル

第十二条 日曜日ノ外年中休業日左ノ如シ

〔朱書付箋〕
「日曜日」

秋季皇靈祭

九月

神嘗祭

十月十七日

天長節

十一月三日

新嘗祭

十一月廿三日

冬季休業

自十二月第四本曜日
至一月第三本曜日

孝明天皇祭

一月三十日

紀元節

二月十一日

春季皇靈祭

三月

春季休業

自四月第一日曜日
一週間

神武天皇祭

四月三日

札幌神社祭

六月十五日

夏季休業

自七月第一本曜日
至八月第四本曜日

教則

第十三条 本科生徒修学ノ期ヲ四年トス其踐履スヘキ科目左ノ如シ

第一年級

前期

農学

每週四時

化学的物理及無機化学

同 六時

人体解剖学及生理学

同 四時

英語学

同 六時

練兵術

同 二時

農業現術

同 六時

後期

農学

每週四時

化学実験

同 八時

数学 代数 幾何

每週六時

植物学

同 三時

英語

同 三時

自在画法

同 一時半

練兵術

同 二時

農業現術

同 六時

第二年級

前期

農学

每週四時

有機化学

同 四時

農用化学実験

同 四時

植物学

同 四時

幾何及円錐曲線法

同 六時

英語

同 二時

幾何画法

同 一時半

練兵術	同 二時
農業実験	同 六時
後期	
農学	每週三時
農用化学分析及定量分析	同 四時
植物学	同 三時
三角術及量地術	同 六時
動物学	同 六時
数学用画法及製図法	同 三時
練兵術	同 二時
農業実験	同 三時
第三年級	
前期	
農学	每週三時
星学大意	同 二時
地形測量術	同 三時
魚類及漁獲法	同 二時
重学	同 四時
史学	同 六時
地誌製図	同 三時

練兵術	同 二時
農業実験	同 無定限
後期	
農学	每週三時
果樹栽培法	每週三時
物理学	同 六時
英語及文学史	同 二時
英語作文及演説法	同 二時
農家記簿法	同 二時
礦物学及地質学	同 三時
練兵術	同 二時
果樹栽培実験	同 二時
第四年級	
前期	
農学	每週三時
獸医学	同 六時
物理学及氣象学	同 六時
地質学	每週三時
農業討論	同 二時
顕微鏡用法	同 三時

練兵術

同 二時

後期

農學

毎週四時

農用土木學

同 六時

獸醫學及同実験

同 六時

經濟學

同 五時

演説

同 一時

練兵術

同 二時

試験及学位証狀

第十四条 試業ハ各学期ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十五条 生徒各科ノ評点ハ百ヲ以テ最高ト定メ日課評点平均数ト

期末試業評点數ヲ合シ之ヲ二分シテ得ルモノトス

第十六条 諸科平均評点ハ每学期課程時間ノ多寡ニ比例シ各学科ニ

於テ得タル点数ヲ合算シテ之ヲ定ム

第十七条 諸科平均評点五十未満ノモノハ落第者トス

第十八条 点数五十点未満ノモノ三科以上ニ及フトキハ落第者トシ

二科以下ハ再試ヲ行フコトアルヘシ

第十九条 本科四年ノ課程ヲ終リタルモノハ各学期ニ於テ得タル点

數ヲ平均シ五十点以上ノモノニハ卒業証狀ヲ授ケ特ニ優等ノモノ

ニハ農學士ノ學位ヲ授ケ

官費生

第二十條

生徒品行方正學力優等ナルモ「〔朱書付箋〕本科生徒」修學ノ資力ナ

キモノハ本科生ニ限リ左ノ條款ニ拠テ官費生ト為スコトアルヘシ

第二十一條 給与ノ金額ハ入舎ノ日ヨリ月々金拾貳円以内ヲ規トシ

衣服筆紙等現品ヲ以テ給シ或ハ其代金ヲ以テスル等本校ノ便宜ニ

因ルヘシ

第二十二條

學力不足「〔朱書付箋〕充分」ニシテ落第スルトキハ官費生ヲ免ス「〔朱書付箋〕罷ム」

第二十三條 官費生徒ハ卒業後農商務省ノ便宜ヲ以テ官ニ採用スル

トキハ在學時間ニ均シキ年數就職スルノ義務アルモノトス

第二十四條 官費生不得已事故アリテ退校ヲ願出又ハ第九條ノ場合

ニ於テ退校ヲ命スル者ハ給与ノ金額即時ニ返納スヘシ

「〔朱書付箋〕但罹病退校ハ此限ニアラス」第二十五條 官費生ハ第五條ニ準シ第三及四「〔朱書付箋〕号及第四」号書式ノ

誓約書ヲ出スヘシ

第二十六條 官費生ノ保証人モ亦第六條七條ノ旨趣ヲ遵奉スヘシ

予備科

第二十七條 年齡十二年以上ニシテ大凡小学卒業ノ學力ヲ備ヘ且英

語ノ初歩ヲ學ヒ得タル者ハ入学スルヲ得

第二十八條 予備科生徒ハ毎年八月入学スルモノトス但學力優等ノ

者ハ臨時ニ試験ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第二十九条 予備科入学志願ノ者ハ第五号書式ノ願書及履歷書ヲ出

シ其許可ヲ得タル者ハ在札幌ノ父兄若クハ相当ノ保証人ヲ立テ第

六号書式ノ証書ヲ出スヘシ

第三十条 予備科生徒ハ入舍ヲ許サス

第三十一条 予備科生徒ハ授業料トシテ毎月初金五拾錢ツ、上納ス

ヘシ

第三十二条 予備科生徒又ハ其保証人転居スルトキハ速ニ届出ツヘ

シ

第三十三条 学曆試験及退校規則等渾テ本科生徒ニ同シ

第三十四条 予備科生徒修学ノ期ヲ四年トス其踐履スヘキ科目左ノ

如シ

第四級

前期

和英翻訳

毎週六時

読法及綴字

同 同

和漢学

同 同

会话

同 三時

習字

同 同

後期

和英翻訳

毎週六時

読法及綴字

毎週六時

和漢学

同 同

会话

同 三時

習字

同 同

第三級

前期

和英翻訳

毎週三時

暗算

同 六時

読書綴字解字及書取

同 三時

地理書

同 同

和漢学

同 六時

習字

同 三時

後期

和英翻訳

毎週三時

読法解字及綴字

同 同

地理書

同 同

筆算

同 四時

暗算

同 二時

文法及作文

同 三時

和漢学	同	四時
習字	同	二時
第二級		
前期		
文法解字及作文	毎週六時	
筆算	同	同
地理書	同	三時
読法及書取	毎週三時	
和漢学	同	六時
運動	同	一時半
後期		
読法書取及作文	毎週六時	
万国史	同	同
筆算	同	同
和漢学	同	同
運動	同	一時半
第一級		
前期		
読法書取及作文	毎週六時	
歴史	同	同

代数学	同	同
和漢学	同	同
運動	同	一時半
農業現術	同	二時
後期		
代数及幾何	毎週六時	
地文学	同	同
読法演説及作文	同	同
和漢学	同	同
運動	同	一時半
農業現術	同	二時

〔以下入学願書等の書式を略す。〕

* 本則中朱書付箋ハ客歳井川幹事出京中本局管業課員ト協議之上貼付セシモノニシテ確定セルモ^{〔破損〕}之候間為念
申添候也^{〔印〕}
（農商務省北海道
事業管理局庶務課）

〔注〕 本伺は一八年三月に返戻された。五八六を参照。

付箋*は一八年に貼付され、本件提出時には別紙改正案中抹消部分が本文であつたと推定される。

〔農二二四〕

五四三 学科用洋書購入に付伺

第百三拾一号

明治十七年五月廿八日

校長^(印)^(参)七等属加藤政敏^(印)
事務員^(印)^(修)会計員^(印)^(町田)^(印)^(川口)

学科用洋書購入之儀稟議

一 洋書百五拾九部

但ステツフインス農園書外部廿五品

此概算銀貨貳百拾八円六拾五錢

右者別紙目錄之通学科上要用之旨教員より願出ニ付十六年度予算内ニ而御買上相成度御允裁之上ハ会計員ニ於テ該費ニ充テヘキ金額流用及購入方等取計可然哉此段及御稟議候也

〔別紙〕

洋書購入目錄

- 一 ステツフインス氏農園書^(注一)_{上下巻} 老部 金貳拾貳円五拾錢
- 一 スコット氏米国漁獲法 老部 金四円八拾五錢
- 一 スキントン氏万国史^(注二) 貳拾部 金四拾円
- 一 サンダース氏ユニラン綴字書^(注三) 貳拾部 金六円
- 一 サンダース氏ユニラン第貳読本^(注四) 貳拾部 金六円

- 一 サンダース氏ユニラン第貳^(注一)読本 貳拾部 金拾円
- 一 サンダース氏ユニラン第^(注二)三読本 貳拾部 金拾六円
- 一 サンダース氏ユニラン第^(注三)四読本 貳拾部 金貳拾七円
- 一 サンダース氏ユニラン第^(注四)五読本 貳拾部 金三拾三円内三部未達
- 一 ブラオン氏会話書^(注一) 老部 金老円五拾錢
- 一 ベル氏演舌書 老部 金老円八拾錢
- 一 トドハンター氏代数 老部 金三円
- 一 トドハンター氏幾何学^(注二) 老部 金老円三拾五錢
- 一 トドハンター氏平面三角術^(注三) 老部 金貳円
- 一 トドハンター氏円周三角術^(注四) 老部 金老円八拾錢
- 一 トドハンター氏円錐曲線法^(注五) 老部 金三円
- 一 デボイス氏図画静学^(注六)_{巻式} 老部 金七円
- 一 ジレスビー氏道路及鉄道手簿^(注七) 老部 金四円七拾五錢
- 一 レコンチ氏地質学^(注八) 老部 金五円八拾錢
- 一 フリント氏人身究理書^(注九) 老部 金七円
- 一 アガゼ氏比較性理書^(注一〇) 老部 金老円五拾錢
- 一 ア、チエル氏利用植物^(注一一) 老部 金貳円
- 一 バルフホル氏本草学手簿^(注一二) 老部 金四円三拾錢
- 一 ブルツクス氏無脊動物学手簿 老部 金貳円五拾錢
- 一 ミヴァート氏造化論 老部 金老円七拾五錢

一 カルダーウード氏道德之理 卷部 金貳円貳拾五錢

〔朱書〕
「百五十九部合廿六廉」

通計金二百拾八円六拾五錢

〔注一〕 欄外に朱書で「十九年二月二日達」とある。

〔注二〕 欄外に朱点が付けられている。これには「朱点ノ分十一廉十七年七月中達ス」と注記がある。

〔農一九〇〕

五四四 農学校生徒学資官費に更正の儀上請

乾理第一五一号

農学校生徒学資官費ニ更正之義上請

当省所轄札幌農学校本科生徒ノ学資ハ現今貸費私費之二法ニ分チ五拾名ヲ定員トシテ入校ヲ許シ其貸費生ニハ老名ニ付毎月拾貳円ヲ規トシテ貸与シ卒業ノ後同上之割ヲ以テ漸次返納セシムル規則ニ候処当初本校之生徒ハ悉皆官費支給ノ方法ナリシヲ事業ノ都合有之明治十三年中現行ノ規則ニ改正シ爾來其結果ヲ検査候ニ凡貸費ヲ許可スルモノ多クハ資産微弱ニシテ卒業ノ後ト雖トモ容易ニ貸費ノ償還ヲ期スヘカラス唯ニ手数ヲ重ネ候迄ノ義ニテ到底有名無実ニ歸スルノ事情ニ付寧ロ旧法ニ復シ現在ノ貸費生徒及ヒ将来召募スルモノ総テ官費^{私費生徒ハ最迄ノ通}最迄ノ通ヘヲ以テ養成候ハ、生徒ハ常ニ負債者タルノ顧慮ヲ免レ

大ニ修学ノ路ヲ開キ從テ本校之學事隆盛ニ赴クハ必然ト存候実ニ北海道ノ如キハ他道同一ノ比較ヲ以テ論シ難キハ瞭然ニ有之且之カ為メ経費相増候義ニモ無之候間旁右復旧之義特ニ裁可相成度此段上請候也

明治十七年六月廿三日

農商務卿西郷從道

太政大臣三条実美殿

〔朱書〕
「上請ノ趣難聞届事」

明治十七年九月五日

〔公文録三七九四〕

五四五 農学校規則改正案に研究生の條款追加の儀上請^{〔書〕}

先般上申候本校規則之内「官費生」條款ノ次ヘ別紙ノ一項増加相成度此段上申仕候也

十七年六月廿四日

札幌農学校幹事井川洌^{〔印〕}

管理局長安田定則殿

〔別紙〕

研究生

一 本校卒業生中既修ノ学科ヲ更ニ深く研究セント欲スルモノヲ撰ヒ官費研究生ト為スコトアルヘシ

一 研究期限ハ一ケ年以上二ケ年以下トス

一 官費研究生ハ官費生ト同一ノ規則ニ遵フヘシ

一 研究満期ノ上其学科ニ付キ論文ヲ作り之ヲ校長ニ出スヘシ

〔注〕 本上申は翌年三月に返戻された。五八六を参照。

〔農二二四〕

五四六 札幌博物場札幌製物試験場を札幌農学校に転轄に付

経費増額の旨達

北発管第三八号

札幌農学校

札幌農事務所々管札幌博物場并札幌工業事務所々管札幌製物試験場其校へ転轄之義客月三十日電報達ノ通相心得兩場ノ事務及物件総テ受取ヘシ就テハ前年度博物場ニ充ル経費金四千七百五拾円製物試験場ニ充ル経費金三千貳百五拾円合計金八千貳円十七年度其校経費増額トシテ交付候条此旨相達候事

明治十七年七月十五日

管理局長安田定則

印

〔農一四九〕

五四七

第四回卒業式の模様新聞掲載の儀^{〔送〕}

明治十七年七月廿二日

九等属益子忠信

管理局長

庶務課

札幌農学校生徒第四回卒業学位授与式之景況

新聞紙上登録之義同

去ル七月九日札幌農学校ニ於テ第四回卒業生徒学位授与式執行セラレ候ニ付当日之景況及卒業生徒姓名等東京日々新聞時事新報々知新聞等へ掲載致度旨別紙之通并川幹事ヨリ細川御用掛へ依頼越候ニ付右改削取捨之上雜報欄内へ登載取計可然哉尤モ登載料之義者別段支出ニ不及候条至急御指揮相成度此相伺候也

〔別紙〕

七月九日農商務省直轄札幌農学校ニ於テ第四回学位卒業式ヲ執行セラル当日校門及式場ニ緑門ヲ設ケ国旗ヲ掲ケ球燈草花ヲ点綴シ午後校長生徒ヲ始メ招待ノ賓客及ヒ生徒親戚參觀人等參校ニ時ヨリ兵学教員加藤歩兵少尉ノ指揮ニテ生徒ノ歩兵操練アリ畢テ一同演武場ニ昇ル場ノ中央ニ卓ヲ置キ右側ニハ校長幹事教員事務員左側ニハ招待ノ奏任官及ヒ同校出身ノ学士等列席正面ニ向テ卒業生及本科予科ノ生徒其左右及背後ニハ參觀人等無慮貳百余名着席セリ坐定テ後并川幹事ノ起テ卒業生ノ演題及ヒ姓名ヲ呼ハル、ニ從ヒ早川志賀福原河村頭本渡瀬ノ六氏順次ニ邦語及英語ヲ以テ交々學術ノ演説アリ終テ森校長ヨリ学位及ヒ歩兵操練科卒業証書ヲ授与シ尚簡短ノ祝辭ヲ以テ之ヲ奨励セラル次ニ福原鉄之助氏答謝及告別ノ辭ヲ陳フニ是テ式全ク畢ル本日來賓ノ内ニハ調所長谷部山内家村馬島平井辰埜山崎ノ

諸君又滞在中ノ塚原管船局長石井電信局長渡辺典獄等ヲモ見受タリ

本日学位ヲ受ケン諸氏ハ左ノ如シ

北郷文五郎(岡山県) 福原鉄之輔(山口県) 菊池熊太郎(岩手県)

頭本 元貞(鳥取県) 佐瀬辰三郎(青森県) 渡瀬庄三郎(静岡県)

中根 寿(札幌県) 手嶋 十郎(京都府) 志賀 重昂(愛知県)

岡 文二(宮城県) 黒宮 武雄(愛知県) 結城 祥吾(福島県)

河村 九淵(東京府) 武信芳太郎(鳥取県) 三増 条吉(山口県)

早川 鉄治(岡山県) 山下敬太郎(兵庫県)

〔注〕 末尾に「三新聞社員へ七月廿一日午後十二時三十分達済」との朱書あり。

分達済」との朱書あり。

〔農〇二〇一〕

五四八 温室の生産物保存及び売却の儀伺(七月二四日起案)

学第五十四号

生産物保存売却局長伺按

本校附属校園并温室十七年度生産物保存売却并需用等別紙之通り取計可然哉此段相伺候也

年 月 日

局長

校長

追伸本文御裁可ノ上ハ電報ヲ以テ御指令相成度候也

〔別紙〕

明治十七年

自明治十七年七月
至同十八年六月 生産物保存売却見積書

札幌農学校附属温室

〔朱書〕
「自明治十七年七月
至同十八年六月」生産物保存調

農学校附属温室

品 目	数 量	数 量	代 価
ヒウシヤ	拾 鉢	拾 鉢	九 円
ジレニム	拾 鉢	拾 鉢	九 円
ペラコニヤム	八 鉢	四 鉢	四 円
アカシア	貳 鉢	貳 鉢	六 拾 銭
アビウテロンサンターナ	貳 鉢	四 鉢	拾 銭
株爛竹	貳 鉢	二 鉢	二 円
レゼナ	貳 鉢	貳 鉢	貳 拾 銭
キヤラ	三 鉢	貳 鉢	五 拾 銭
ホーヤ	三 鉢	貳 鉢	五 拾 銭
草ツゲ	三 鉢	四 鉢	五 拾 銭
テイカ	三 鉢	六 鉢	拾 銭
ペコニヤ	拾 鉢	二 鉢	五 拾 銭
ランタナ	四 鉢	六 鉢	拾 銭

生産物売却代価見積調

農学校附属温室

品目	数量	代 価	需用
葡萄	三百四十八斤	八円七拾銭	八円七拾銭
ストロベリー	式 斗	四 円	四 円
カーレンチ	壹斗七升	三円四拾銭	三円四拾銭
ラスベリ	壹斗	式 円	式 円
グスベリ	壹斗	拾円八拾銭	拾円八拾銭
アスパラグ	五 拾 斤	六 円	六 円
キヤベージ	八百 斤	四円八拾銭	四円八拾銭
トマト	八百八十斤	二円七拾銭	二円七拾銭
切 花	千六百六十本	八円三拾銭	八 円
草 花	苗三百 本	本 壹円五拾銭	壹 円
同 種	子五百五十匁	五円五拾銭	五 円
草花九十種ノ内			
一ヒウシア	百八拾鉢	式拾一元六	三円六拾銭
シレニム	百九拾五鉢	式拾三元四	四 円
ペラコニ	百拾九鉢	拾四元二十	壹円二十銭
ヤム			
サイクラ	八 拾 鉢	二円四拾銭	三 十 銭
ンメ			
南 天	三 拾 鉢		九 十 銭
香長木	六 拾 鉢	壹円八拾銭	三 十 銭
			一元五十銭

札幌

ベコニヤ	四拾七鉢	壹円四拾一	五十一銭九拾銭
マサキ	二拾鉢		六十銭
シヤボテ	拾 鉢		三十銭
トロビウ	百四十鉢	四円二十銭六	十 銭
ラム			三円六拾銭
アスター	七十本	七十銭	
キヤリン	八 鉢		七十銭
ジャ			八十銭
ストツク	七 鉢		二円十銭
ウベシカ	六十一鉢		一元八十三銭
茨	五十一鉢		四円〇八銭
ルベリア	拾 鉢		六十銭
バビナ	百 鉢		三 円
ペンク	拾 鉢		壹円四十銭
キヤラ	八 鉢		二 円
ベチエニ	二十鉢		壹円二十銭
シムルス	三十八鉢		一元十四銭
合 計		百四拾九円六拾三元七十	八十五円七拾五銭

〔農一九四〕

五四九 渡瀬庄三郎博物学研究に従事の儀伺(八月八日)

学第五六号

△

本年卒業 農学士渡瀬庄三郎

右本校教員予備として更ニ貸費ヲ以テ東京ニ於テ博物科研究被命度
尤研究生御設之儀ハ曾テ本校規則改正ト共ニ相伺置候ニ付右御指令
濟次第右ニ準拠取調可相伺候仍而辞令案相添此段上申候也

月 日

校長

管理局長

辞令案

博物科研究申付候事

農学士渡瀬庄三郎

但貸費生同一之規則ヲ遵守可致事

月 日

札幌農学校

〔農一九四〕

五五〇 小麦栽培に関する質問に対する回答

札幌一千八百八十四年八月十四日

農商務大書記官鈴木大亮殿

閣下吉田君ヲ以而御尋問之義ニ付左之三項ヲ短簡ニ陳述仕候

第一 当地方ニ植産スルニハ冬春之兩種何レ歟最モ適応スル哉

第二 当地ニ於テ何種最モ能ク成熟スル歟

第三 種子ハ幾年間其良質ヲ保続スル歟

第一ノ答 冬小麦ハ春小麦ニ比較スルニ收穫頗ル多量ニシテ且ツ美
良ナルハ已ニ業ニ明瞭ナリ当近在ニ播植スルノ冬小麦ハ積雪ノ為メ
屢々損害ヲ蒙ルヲ視ルト雖トモ尚ホ可ナリニ成熟スレバ余ハ冬小麦
ノ植産ヲ奨励セラレンコトヲ希望ス然レトモ其損害延テ甚シキ所ニ
至テ亦タ春小麦ヲ播植スルニ利アルヘク存候

第二ノ答 何種当地方ニ適応スルヤ断言スルコト難シ是レ經驗ニ徴
セサレハ其適応ノ実否ヲ了知スルコト能ハサレバナリ彼ノ地良種ト
称用セルモノ頗ル多シ唯々其數種ヲ摘記シテ參考ニ供ス最上等ノモ
ノニ(一)ノ字ヲ付シ次等ニ(二)ノ字ヲ付シテ其種類ノ良否ヲ分
別ス当地ニ栽培スルノ小麦ハ銹病(黴ノ類ナリ)ノ為メ損害ヲ受ル
不尠レトモ左ニ摘録スルモノハ全ク此ノ害ヲ素有セズ各種ノ下ニ商
沽ノ人名ヲモ併記ス

現ニ校園ニ於テ英國産冬種小麦四種アリ期節ニ至ラハ試植セント考
察罷在候 小麦種類表ハ略ス

第三ノ答 左ノ數件ヲ探究セバ良質ヲ保続セザルノ理由ナシ

第一 良好ノ土地ニ播植スルコト

第二 耕耨ヲ精良ニスルコト

第三 種類ハ距離ヲ隔テ播植スヘキコト

第四 種子ハ年々良好ノモノヲ撰種スヘキコト

本邦人諸穀物蔬菜類ノ良質ヲ漸次ニ消失スルノ想像ヲ懷カシムルモノハ蓋シ誤謬ナラン其衰替スルモノハ実ニ目撃スル所ト雖トモ前述ノ数件ヲ守リ保護栽培ヲ竭ストキハ必ラスシモ良質ヲ失フノ憂ナケレバナリ然レトモ尋常ノ農民ニシテ其数件ヲ全フスルコト極メテ難シ是本邦農民ノミナラズ東西皆然ルモノナレバ種子ハ宜シク專賣者ニシテ恒ニ種子ノ生産ニ歩々注意スルモノヨリ購入スルヲ良策トナス

種子ハ家畜ニ異ナルコトナク頗ル高度ニ達スルノ美質ヲ得ルモノニシテ殊ニ学識智能兼備スルモノニ非レハ一度其良質ヲ得ルト雖トモ其美質ヲ永遠ニ保チ栽培スル難シ

英米等ノ経験ニ徴スルニ其成熟ノ良否ヲ斟酌シテ二三年毎ニ新種ヲ購フヲ良トス

亦タ同緯度或ハ北方ニ産出スルモノヨリハ一二度南方ノ地ニ産スルノ種子ヲ用ユルヲ良結果アリトス故ニ本道ノ南方敷青森地方ニ於テ種子園ノ設立アラハ宜シカラント思惟ス然レトモ彼ノ地方ニ設ルコト難シトセハ尚ホ此近傍ニ創置アルモ良種ヲ産スルヲ得フベシ急卒ノ草案ナレトモ幾何敷御参考ニ裨補スルコトアラハ余カ幸甚シ

ウキルリヤム、ビキブルクツス謹述

〔農八五一〕

五五一 退職陸軍歩兵大尉高田信清を助教に任ずる件上申

御輦秘第七十六号

任札幌農学校助教

退職陸軍歩兵大尉正七位 勲五等高田信清

但月俸金五拾円

右ハ頭書ノ通申付度候間御開届相成度陸軍卿協議済ノ上此段上申候也

明治十七年九月八日

農商務卿西郷從道

太政大臣三条実美殿

〔朱書〕
「上申ノ趣聞届候事」

明治十七年九月九日

〔公文録三八六三〕

五五二 佐瀬辰三郎化学研究に従事の儀伺

北校第七八号

学第六拾四号

本年卒業 農学士佐瀬辰三郎

右本校教員予備トシテ更ニ一ヶ月金拾貳円ツ、貸費ヲ以テ本校ニ於テ化学科研究申付度追テ研究生御設之節ハ右ニ準拠更ニ伺出ヘク候得共差向去ル八月学五六号上申之通取計可然哉此段相伺候也

明治十七年九月十六日

札幌農学校長森源三

管理局長安田定則殿

〔朱書〕
伺之趣聞届候事

明治十七年十一月四日

管理局長安田定則 印

〔農一三六〕

五五三 北海農話会及び開識社開催願に付伺

明治十七年九月廿二日

碓山晋 印

事務員 印(修) 印(加藤)

助教 印(宮部) 印(内田)

印(大嶋) 印(益)

校長代理幹事 印(井川)

願意聞届之儀伺

別紙農話会員及開識社願意之趣聞届候テ可然哉左ニ指令案相添此段相伺候也

願之趣聞届候事

但シ開会時限ハ午後第七時ヨリ十時迄ト可心得且會員之増減及ヒ会則之變更ハ其都度速ニ以書面可申出候事

月 日

〔別紙一〕

願

農学研究之目的ヲ以テ従来復習講堂ニ於テ毎月第二及ビ第四土曜日午後第七時ヨリ十時迄農學演舌或ハ討論等施行致来候処向後食堂ニ於テ開会仕度存候ニ付前段御聞届相成度別冊本会諸規則別ニ人名簿相副此段奉願候也

北海農話会々員 長谷川豊太郎 榎 忠一郎

野沢俊二郎 水野喜太郎 谷千代太郎

友高猪之助 安岡備二郎 石橋 朗

池田 政吉 木村繁四郎 安田 英吉

不在南 鷹二郎 堀 宗一

明治十七年九月十九日

札幌農学校御中

北海農話会目的

農事上百般ノ事物ヲ演舌討議シテ北海道農業ノ改良進歩ヲ謀ルコト

北海農話会会則

第一条 毎月第二及第四ノ両土曜日ヲ以テ会日トス

但シ午後七時ヨリ十一時マデ開会ノコト

第二条 本校生徒及ビ本校出身ノ農學士ハ皆ナ會員タルヲ得

第三条 入会或ハ退会セント欲スルモノハ願書ヲ出ス可キコト

第四条 会長、副会長、書記ノ三役ヲ置キ会務ヲ掌ラシム

第五条 演舌者ハ毎会三人トシ之ヲ前々会ニ定メ置ク可シ

但シ毎会予備演舌者一人ヲ撰ミ置クベシ

第六条 演舌者ハ前会ニ於テ其ノ演舌題ヲ衆員ニ示シ置クベシ

第七条 会員ハ演舌後之ヲ批判スルヲ得

第八条 本校員ニ限り傍聴ヲ許ス

第九条 欠席セント欲スルモノハ時間前必ズ書記江届出ヅベシ

第十条 総テ会員ノ姓名ハ英語假字ヲ以テ順席ヲ定ムベシ

第十一条 会員過半数以上ノ同意者アルトキハ臨時討論会ヲ開クコトアルベシ

トアルベシ

第十二条 会員ノ遠国ニ在ル者ハ毎年一月三月九月十二月ニ於テ本

会ヘ通信スベシ

第十三条 遠国会員ヘハ毎年一、三、九、十二ノ四月ニ本会事務

ノ梗概ヲ報ズベシ

但シ通信事務ハ該月当番ノ書記之ヲ掌ル可シ

第十四条 冬期及ビ夏期、休業ノ間ハ開会スルコトナシ

第十五条 大試験ノ前月ヨリ開会セズ

第十六条 凡テ農話会ニ関スル事件ハ会ノ三役之ヲ料理スルノ義務

ヲ負フベシ

北海農話会会員姓名

斎藤祥三郎 原田成貞 中根明 伊吹鎗造 久嶋重義 武藤玄三郎

北郷文五郎 佐瀬辰三郎 結城祥吾 岡文二 河村九淵 本土源二

郎

右遠国会員

南鷹次郎 堀宗一

右校外寄留会員

長谷川豊太郎 樺忠一郎 野沢俊二郎 友高猪之助 谷千代太郎

安岡備二郎 木村繁四郎 石橋朗 池田政吉

書記人安田英吉[㊦] 水野喜太郎

* 十一時ハ十時ト致し度 [㊦](金) [㊦](内田) [㊦](加藤)

〔別紙二〕

願書

別紙規則書ニアル目的ヲ以テ毎月二回復習講堂ニ於テ演説并討論会
相開キ来候処向後食堂ニ於テ開会仕度此段別紙規則書并人名表相添
奉願候也

明治十七年九月十九日

開識社々長山口壮三[㊦]

札幌農学校事務御中

在校社員

伊達直温 池田政吉 石橋朗 今外三郎 中川太郎 大町信 小野

三郎 谷千代太郎 友高猪之輔 渡辺勇太郎 山口壮三 柳内義之
進 平野保作 川上八三郎 堀正太郎

此他校外ニアル農學士數十名通信員ニ御坐候

十七年九月

開識社規則

第壹条 本社ノ主旨ハ學術上ノ件ニ関シテ討論研究シ俱ニ智識ヲ擴
ムルニアリ故ニ苟モ社員タル者ハ能ク此意ヲ守リ共ニ學事ヲ研窮

スヘシ

第貳条 社名ヲ開識社ト称ス

第三條 社員ハ札幌農學校生徒及農學士ニ限ルモノトス

第四條 入社セント欲スル者ハ社員ノ紹介ヲ得テ願書ヲ差出スベキ

事

但シ入社セントスル者アルトキハ社員多数ノ決議ニ依リ許可ス

ベシ

第五條 病氣或ハ事故アリテ退社セントスルモノハ其旨ヲ書面ニ認

メ差出スベキ事

第六條 投票ヲ以テ社長副社長書記副書記ノ四名ヲ撰挙シ社事ヲ取

扱ハシム

第七條 役員ノ任期ハ弐回ヲ以テ限リトス

但シ社長及書記ハ満期後一期間ハ全ク被撰挙權ヲ有セスト雖ト
モ副社長副書記ハ之ヲ有スルモノトス

第八條 社長ハ社員多数ノ決議ヲ以テ社事ヲ取扱フノ權ヲ有シ又社
員過半ノ同意アル時ハ臨時會ヲ開クコトヲ得ルモノトス

第九條 副社長ハ社長差支或ハ欠席ノ節之カ代理ヲナス任ヲ有ス

第拾條 書記ハ會日ノ記事及ヒ社員演說等ヲ記録簿ニ記載スルノ任

ヲ有ス

第十一條 副書記ハ書記差支又ハ欠席ノ時之カ代理ヲナスモノトス

第十二條 會日ハ毎月第一土曜日ヲ演說會トシ第三土曜日ヲ討論會

トス

但シ開會時限ハ日ノ長短等ニヨリ適宜ニ変スルコトヲ得レトモ

演說會討論會トモ粗ホ三時間以内ニ終ルモノトス

第十三條 演說者ハ每會正員四名并予備員二名トス

但シ予備員ハ正員欠席ノ節代ツテ演說スルモノトス

定員演說終ルノ後尚時間アル節ハ社員有志者演說スルヲ得ルモ

ノトス

第十四條 討論題ハ前會ニ於テ社員多数之決議ヲ以テ定メ置クモノ

トス

第十五條 社員中差支アリテ欠席ヲ要スルトキハ其旨ヲ予メ書記ハ

届出ツヘシ

第十六条 傍聴ハ校内生徒ノ外之ヲ許サス

但本校教員事務員ハ此限リニアラス

明治十七年第九月

〔農一三六〕

〔農一七六〕

五五五 農学協会願出の件に付伺

明治十七年九月廿九日

六等属大瀧修三〔印〕

五五四 外国人教師雇継の儀伺

北校庶第八〇号

校長代理〔印〕〔井川〕

取締〔印〕〔重〕

教官〔印〕〔大嶋〕〔印〕〔金井〕〔印〕〔宮部〕

学第六拾八号

農学協会願出之義ニ付稟議

〔朱書〕 外国教師雇継伺

〔明治十八年一月五日満期ニ付〕

自明治十八年一月六日
至同二十年八月五日 二ケ年ト七ケ月 ウキリアム、ピーブルークス

農学協会之儀ニ付生徒等ヨリ別紙願書差出候ニ付御聞届相成可然哉
指令案相添此段相伺候也

指令按

〔朱書〕 願之趣聞届候事

但會員之増減及会則之變更等ハ其都度速ニ以書面可届出講堂ノ

〔同十八年一月六日満期ニ付〕

自明治十八年一月七日
至同二十年一月廿日 二ケ年ト十四日 ジョン、シーカッター

義ハ願面第二号貸与候事

〔別紙〕

御 願

右本校備外国教師兩名各朱書之通り備満期ニ相成候ニ付従前同一之
条約ヲ以頭書之通り御備継御許可相成可然哉別紙条約書写相添ヘ此
段相伺候也

明治十七年九月廿五日

農学校長代理幹事井川冽〔印〕

管理局長安田定則殿

〔朱書〕 伺之趣聞届候事

明治十七年十二月四日

管理局長安田定則〔印〕

小生共農事研究志願ノ者ニ候間従前ノ通農学協会々場トシテ予科講
堂御拝借仕度此段御聞届被下度奉願上候也
但シ午後二時ニ開キ同五時ニ閉会致ス可候

明治十七年九月十九日

農学協会当直 小寺甲子二[㊦]

會員 長谷川豊太郎[㊦] 木村繁四郎[㊦]

榎 忠一郎[㊦] 南鷹二郎[㊦] 宮部金吾[㊦]

野沢俊二郎[㊦] 和田健三[㊦] 安田英吉[㊦]

安岡雋一郎[㊦]

當時不在 足立元太郎 同相山清利

札幌農学校御中

農学協会規則大略

一 會員ハ札幌農学校生徒及ビ同校関係ノモノトス

一 本会一切ノ事務ハ当直一名ヲ置キ之ヲ掌ル

但シ当直ハ在校會員月替ヲ以テ任スルモノトス

一 傍聴ハ当校生徒及ビ当校関係ノモノニ限ル

一 毎月第一及ビ第三土曜日午後集會ヲ催ス

但シ当分ノ内ハ午後二時開會同五時閉場トス

当直小寺甲子二[㊦]

〔農一六九〕

五五六 生徒内則

生徒内則

第一条 校中ニ於テ疾走シ若クハ吟詩謳歌高声等総テ喧嘈ノ挙動ヲ

禁ス

第二条 室内ヲ不潔ニシ或ハ書器ヲ錯乱セシム可カラス

第三条 臥床時間燈火ヲ点シ又ハ他室ニ入ルヲ禁ス

第四条 室内ニ食物又ハ酒類ヲ入ルヲ禁ス

但シ病氣ノ為特ニ校長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ非ス

第五条 有害不正ノ玩具書冊等総テ室内ニ入ルヲ禁ス

第六条 帰校時刻ハ午後八時ヲ限リトス

但シ公許ノ祭日ハ午後十時限トス

第七条 午後十時係官巡視ノ際ハ必ス室内ニ在リテ其檢閲ヲ受ベシ

但シ巡視ノ節室内ニ在ラザル者ハ外宿者ト見做スベシ

第八条 事故アリテ帰校ノ時間ニ後レ又ハ外泊ヲ要スル時ハ校長ノ

許可ヲ得帰校ノ節ハ先方ノ証書ヲ添ヘ届出ベシ

但シ急病等ノ為メ帰校遅刻又ハ外泊スルモノハ先方ノ証書ヲ添

ヘ其理由書面ヲ以テ申出ベシ

第九条 外来人ニ面会スルハ必応接所ニ於テスベシ若シ事故アリテ

室内ニ入ル、ヲ要スルトキハ詳細書面ヲ以テ願出ベシ

但シ点燈後応接ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アルトキハ係官

許可スルコトアルベシ

第拾条 喫飯ハ報鐘ヲ待テ食堂ニ入ルベシ即チ報鐘後三十分ヲ過ル

トキハ食堂ニ入ルヲ許サス

但シ事故ニ因リ既ニ許可ヲ得ン者ハ帰校ノ上直ニ係官ノ指揮ヲ受クベシ

第拾一条 本校生徒ハ校ノ内外ヲ不問必ス洋服若クハ和服袴ヲ着用スベシ

第拾二条 沐浴ハ午後四時ヨリ七時マテヲ限トス

第拾三条 官物及ヒ給貨品ヲ破毀遺失シ又ハ室内障壁等ヲ破毀セシトキ之ヲ処分スルハ勿論假令ヒ其破毀者不分明ナルモ其室ノ者之カ責ニ当ツベシ

第拾四条 生徒ハ小使ヲ使役スベカラス若シ不得已事故アル時ハ其旨係官ニ願出ベシ

第拾五条 前文ノ條款ヲ犯シ若シクハ其他不当ノ挙動アリト認ムル時ハ一日若クハ一日以上ノ外出ヲ禁ス

第拾六条 外出ノ禁ハ其一日ニ付罰点五個ヲ附シ之ヲ品行点ヨリ引クベシ

第拾七条 罰点多數ニ至リ懲戒ノ道絶タル者ト認ムルトキハ退校ヲ命ス

右決定候也

明治十七年九月卅日

〔農〇一五〕

五五七 農業実習方法改正の件^{〔註〕}

明治十七年十月四日

助教南鷹次郎^⑥

校長代理

幹事

生徒現業之義者從來不整頓之態不勘候ニ付今般教師ブルツクス氏協議之上實際之都合ニ依リ別紙之通り更正履行致度此段上申候也

〔別紙〕

農業

一年生

第一期 校園一般ノ作業ニ応シテ実習ス

現業一週四時

第二期 諸機具類ノ組織効用及用法ヲ実習ス

牛馬取扱法演習

現業一週六時

二年生

第一期 諸機具類ノ組織効用及用法講習

土質検定ノ演習

排水管施設法実習

現業時間未定

第二期 農業學理的試驗

農用的氣象視察法 器械不整

現業時間未定

三年生

第一期 農業學理実験

農用的氣象視察法 器械不整

ラキシミートル実験法 器械未着

現業時間未定

第二期 農業學理の実験

家畜管理法実習

ラキシミートル実験 器械未着

現業時間未定

四年生

第一期 農業學理の実験

家畜飼養法実験

現業時間未定

第二期 家畜飼養法実習

園圃管理法講習

搾乳牛術

牛油牛餅煉乳炮腿等ノ製法

現業時間未定

〔注〕冒頭に「本文ハ校長根室出張之前決定ニ相成候事

⑨(井川)との朱書あり。

〔農一七六〕

五五八 農学教授用農具肥料等購入の件

於札幌一千八百八十四年十月十五日

札幌農学校長代理井川君

農学教授用トシテ農具併ニ肥料及ヒ種子標本御購入相成度義十六年
 十月三十一日ヲ以テ森校長へ相伺置候処右御允可相成様致度左ニ注
 文書相認候ニ付御許可之上ハ適當ノ順序ヲ經^{〔イイ〕}ヘ御取計可被下候

一 農具標本

此概算金四拾七円

一 肥料標本

此概算金拾五円

一 種子標本

此概算金拾円

農学校教師ブルクツス 敬具

〔別紙一〕

於札幌一千八百八十四年十月十五日

ボーカル肥料会社諸君^(注一)

札幌農学校ノ為メ平常商沽ノ販売スル肥料標本一通リ廻送セラレン
コトヲ願フ^(各五磅)貴社ニ於テ欠乏ノモノアラハ他ヨリ購入被下度
尤モ価格拾五弗以上ニ及ハサル様御取計ヲ乞フ右代金ニテ肥料標本
悉皆ヲ購フニ不足ヲ来シ候バ適宜ニ減量相成リタシ

湿润ナル肥料ハ相成ルヘク強靱ノ袋ニテ他ハ小形ノ鈴箱ニ入レ各箇
ニ確實ノ番号ヲ附シ而シテ其番号名称組分及屯噸或ハ百斤毎ノ代価
ヲ記載シタル表ヲ御郵送被下度候

右各個一纏メニ荷造シ左ノ通り宛書キ可被下願上候

日本東京農商務省所轄

札幌農学校

諸雜費ハ此注文ニ關係アル官吏ニテ取扱可申且ツ船積モ同様ノ義ト
存候

〔別紙一〕

於札幌一千八百八十四年十月十五日

ハウレキーブロードハルドウエル会社諸君^(注二)

札幌農学校ノ為メ左記ノ農具御送付アリタシ

一 蔬菜園用除草器<sup>鋤鉄製第二号
造リ付ケ柄</sup>

一同 第二号箱込柄

一 牛用日耳蔓形除草器第壹号

一 牛用鶴嘴<sup>第四八四号併ニ第四八七号
重量四磅半ノモノ</sup>

一 ザムリン氏柱穴掘採器

一 蔬菜園用手把磨鋼鉄拾二齒ノモノ

一同 箱込拾二齒ノモノ

一 牛用乾草把^{彎曲三尺}

一 ヒルスノ豚用鼻捻器

一同 改良鼻捻器

一 大鎌<sup>長サ中形刈草用
柴刈用</sup>

一 鎌デ一形柄付<sup>凹形及
四角形ノモノ</sup>

一 鎌 長 柄同上

一 掘採用一<sup>長柄
短柄併排水溝用</sup>中形式色

一 掘採用又デ一形柄付四齒付<sup>長形環付
長形環付</sup>

一 馬鈴薯掘採用器<sup>第三番及
三十五番</sup>

一 鎌

一 斧<sup>コリンス会社製
重量四磅半併
專売ノモノ</sup>

一 斧

一 肥料用又四齒デ一形柄<sup>長形環付
長形環付</sup>及エリリプス五齒長柄

一 パーチャルス及ダキヤモンド乾草用又第一二三四及五号

一 馬及驢馬用蹄鉄標本五弗ノ価相当ノモノ

充分堅固ニ箱造ヲ成シ左ノ通り記載相成タシ

日本東京農商務省所轄

札幌農学校

右ニ係ル諸雜費及船積ハ關係官吏ヨリ何分ノ御相談可有之義ト存候

ピー。ブルクス 敬白

〔別紙三〕

於日本札幌一千八百八十四年十月十五日

ゼエ、セエ、エチ、グリゴリ君
〔注三〕

札幌農学校ノ為メ価格拾弗ニ相当致候様左ノ穀菜種子標本御送附相成度候(種子大ニシテ下値ノモノハ半磅高値ノモノハ一磅四分ノ一位ノ割ニ成シ被下度)

一小麦。裸麦。燕麦。大麦。蕎麦。ホンガリ草。百部根ベルベリ。

ポーレーヂ。プロセルス。スプラウト。ブロツコツリ。甘藍。胡蘿

蔔。花椰菜。塘蒿。チツコリ。チユファツクス。カラルド。玉蜀

黍。筍草。水芹。胡瓜。蒲公英。茄子。菊苣苣。匏。蒜。ケール。

千頭菜。韭。萵苣。マルチユニーヤ。西瓜。芥子。ナステンチオ

ム。オクラ。玉葱。旱芹。豌豆。蕃椒。大根。大黃。サルミフア

キ。菠薐。スウキスカルド。蕃茄子。ウエジテブル、スネルス。ウ

オタル、チストノツトホワキト、ルーフ

重要ノ種子ハ四種類他ハ一種乃至三種類ニテ充分ナレバ適宜撰択ア

リタシ尤モ代価不足ノ節ハ相成ルヘク注文通りノ数量御送附相成様願候荷造ヲ堅固ニシ左ノ通り表書可被下願フ

日本東京農商務省所轄

札幌農学校

代価払込及船積ハ此注文ニ關係アル日本官吏取計可致義ト存候

ウキリヤム、ビーブルクツス 敬白

〔注一〕 この会社は、Bowker Fertilizer Co. (New York)

である。

〔注二〕 この会社は、Hawley Bros, Hardware Co. (San

Francisco) である。

〔注三〕 この会社は、James J. H. Gregory (Marblehead, Massachusetts) である。

〔農一七二〕

五五九 予科に兵学科目設置等に付伺

本校生徒ニ武学講習シ可然ト相心得候件々ニ付伺

一 本校諸生徒ニシテ武学ノ講習ハ則チ予科ナルヲ以テ専ラ衛生上ヲ慮リ及ヒ事ニ耐ヘシム可キ氣象ヲ起サシムル様茲ニ注意ス可シ故ニ諸事柔弱ニ流レシメンタメ実科ニ於テハ稍嚴肅ニシテ綱ナラシメ度事

一 予科生徒モ教程中教練ノ一科ヲ御設ケ國民軍ナル者モ心得置キ

可然學術ヲ教授シ旁ラ健康ヲ補全セシメ候様相成度依テ演武ノ一科御設ケアリ度事

一 器械体操ハ一時費額ヲ要シ候得共青年發育上及ヒ氣象活発ナラシムルニ至極ノ義ト存候間御新設盛カンニ御施行相成度事

一 科目中射のハ尤トモ費額ニ關係ス可キモノナリト雖トモ要スルニ学科上解シ難キ決果ヲ實際ニ見出スコト多キヲ以テ只学期ノ終リ數十回御施行相成度概ネ生徒一名ニ付金三円宛年々備ヘ置キ終期ニ至リ金拾二円ヲ以テ実行候ハ、可然ト存候間該術御實施相成リ度事

一 野外演習及ヒ游泳馬術モ多少費額ハ要シ候得共武學上必要ノコトニ付科目上御指加ヘ置キ被下時宜ニヨリ費額ノ不都合相成候節御實施相成リ可然存シ候事

一 從來練兵ノ時間ハ一週二時間ニ有之候得共衛生上ヲ慮リシノミナラス同級生ニシテ或ハ少人数ニテ實際演習ニ差支候義モ可有之ヤ依テハ午食後三十分間毎日柔軟体操或ハ急行運動等其健康ヲ保タシム可キ実科ヲ施行仕リ度ニ付此時間御増設相成リ度コト

一 軍人ハ勿論文学生徒ト雖トモ起居進退ハ嚴肅ナラサルヲ得サルノミナラス衛生上室内ノ清潔服裝等自ラ法令規律ナキヲ得スヤ則チ本校生徒内則御設ケ有之毫モ間然無之候得共右内則ニ就テハ陸軍々隊起居定則中採テ可然廉々ハ可相成御採用被下常ニ軍隊居動

ニモ亦慣レシメ度予メ御採決相成度追々其件々心付之義相伺ヒ度事

右之外多少奉伺度義モ御坐候得共猶追々相伺度差当リ武學教授ノ順序及ヒ科程別表ノ如ク施行シ可然哉ト相考ヘ候間該表ニ添右件々而巳相伺候間可然御採決被下度候也

明治十七年十月二十五日

幹事井川湧殿

助教高田信清

〔別紙〕

本校予科本科生徒ノ歩兵科踐履ス可キ科目

予 科 生

学 科

実 科

軍人ノ精神上摘要

柔軟体操

軍人ノ誓 誡法

游 泳

武裝ノ要領

器械体操

軍人ノ敬礼及服從論

初 年 生

軍ノ編制各兵ノ効力摘要

生兵操練

生兵及ヒ中隊操典

距離目測

路上圖

射の予行演習

二 年 生

哨兵勤務

大隊操典

射的教程

三年生

中隊野外教練

銃兵教程

四年生

兵学教程

地形ニ応スル戦闘ノ摘要

已上

各聯隊ニ於テ兵卒ヲ撰拔シテ上等卒ト為シ分隊長ノ任ヲ命セシ

ムル為メ更ニ教ユル學術

学科

歩兵操典 中隊學マテ

射的教程 実科ノ部

野外演習軌典

銃兵教程

内務書

衛戍勤務書

路上製図学

中隊操練

路上図

操練解説演習

射的

野外演習

馬術

実科

操練 中隊運動マテ

射的

野外演習

銃兵作業

器械体操

操練解説演習 生兵ノ部

路上図

数学 比例マテ

生兵概則

懲罰令

陸軍刑法

〔ママ〕
已

距離目測

号令音調

游泳

一 學術修業期限ハ歩兵ニアツテハ凡ソ十ヶ月間ニシテ一日就業時間ハ季候ニヨリ伸縮スト雖トモ概ネ六時間以上七時間マテナルナリ

一 上等卒ナルモノハ所謂下士官ニシテ分隊長或ハ銃兵長トナサシメ部下ノ兵卒ヲ教育統治セシムルノ責ニ任スルモノナリ然トモ此學術ヲ卒業スルモ或ハ補助員トシテ所屬部隊ニ置クヘキコトアリ
一 該卒卒業ニ際シ之レカ卒業證書ハ与ヘサルノ例タリ唯ニ學術ノ優劣ニ従リ姓名ヲ列記シ一ノ卒業名簿ヲ綴リテ所屬部長ニ進呈セシノミナリ

士官学校予科生徒ト称シ華族ノ子弟ヲシテ入校セシメ之レニ授クル學術ハ仮ニ左表ノ如ク予定セラレタリ其教則

学科 実科

其一 算術 其一 諸体操

其二 漢学 其二 歩兵操練

其三 作文 其三 馬術

其四 画学 其四 騎砲工操練
其五 地学

已 上

一 予科生徒卒業ノ上ハ直ニ後備軍士官ニ採用セラレ或ハ更ニ士官生徒トシテ高尚ノ學術ヲ習ハシムルコトモアル可キモノナリ
一 修学期限ハ凡ソ一ケ年間ナリト雖トモ時宜ニ從リ尚ホ一ケ年延期シ高尚ノ學術ヲ教ヘテ以テ少尉ニ任セラル、モノモアルナリ

〔農二〇六―四〕

五六〇 牛酪製出に付回答

校第貳百号

過般海軍省病院より牛酪之請求有之趣電報ヲ以テ加藤六等屬ヘ有無及代価之儀御問合セ相成候処目下生乳不足ニ付暫ラク製出之見込無之候且ツ代価ハ五拾錢以下ニテハ到底相償サル儀ニ付右ヲ最下ノ價格ト相定メ候尚ホ牛酪製出ノ実況左ニ詳記候間右ニ御了承相成度此段申進候也

明治十七年十月廿九日

札幌農学校

管理局管業課御中

〔別紙〕

従来牛酪之需用ハ当地ニ於テ極メテ鮮少ニシテ毎月販売スルモノ僅

ニ拾斤許ニ過サルカ故ニ年々製出スル牛酪ハ積テ数百斤ニ至リ經久スルニ随テ自然酸敗セサルノ憂ナキヲ保シ難ク為メニ先般東京地方ニ廻送セシコトヲ企図シ品評ノ御依頼ニ及ヒシニ六七七月ノ交ヨリ遽ニ生乳牛酪共ニ頗ル需用ヲ増加シ生乳ハ恰モ減量スルノ氣節ニ際シ供給ニ不足ヲ生シ随テ牛酪製造モ中絶スルノ姿ニシテ目下其蓄藏老斤ヲ余サス暫ラク諸方ノ請求ニ応スル能ハス斯ク需用夥多ナルハ曾テアラサル所ナリ蓋シ今春來脚氣流行セシヨリ遽ニ生乳ノ需用ヲ增多シ且ツ牛酪ノ実用者モ漸ク増加ス然リト雖トモ明年ニ至レハ亦タ乳牛數頭増殖スルカ故ニ生乳需用ニ供給スルモ尚ホ毎月數石ノ余贏アルヘキヲ以テ一ケ年四五百斤ノ牛酪ヲ製出スル容易ニシテ三百斤内外ハ東京地方或ハ他ニ販路ヲ求メサル可ラズ

現今ノ景況ニテハ生乳ハ牛酪ニ比スレハ三倍ノ利益アルノミナラス此カ販売ヲ制減スルニ至テハ近在人民ノ不便ヲ感スル勢カラサルヲ以テ専ラ生乳販売ヲ主トシテ牛酪製造ハ其冗余アルヲ以テセリ即チ十六年七月以降本年八月ニ至ルノ別紙搾乳製酪等ニ係ル表ヲ添テ一覽ニ供シ候

歳月	搾乳高	払下高	存牛需用高	牛酪製造用	斤量
十六年七月	一五五・一〇五	七五・二九〇	四五・二二五	三三・六	三〇斤
八月	一六八・二二	七五・四七七	一一五・二一	一八	

九月	十月	十一月	十二月	十七年	二月	三月	四月	五月	六月	〔計〕	七月	八月	一計
一四〇〇七	一三八四一	一六三三二	一七七七一	一五〇六二	一三七五一	一六八四四	一五二七二	一三九四七	一六石一一五	一八〇一六六	一三一九一	一一二六一	二〇四六八
六九〇〇七	七六一七二	六八八三一	九三三二一	八五二八一	一〇八〇四一	一二二五七一	一〇八九	一三四一六	一五石三三五		一一二四	一一二〇	
一〇七	三八四三	六二九三	一三〇七	三〇八五	一七二一	一六〇三	六〇五二	一二二〇	石〇八五		〇六七	〇五一	
	八四	一二	三三一	四三六四五	一七七五十五	四二七二八	一六八二〇	四〇九三	石七〇五	三三、九〇二八四			
	三二	二六	六一					三	六				二八四

〔農一八八〕

五六一 書籍貸与規則

書籍貸与規則

第一条 本校書籍ハ専ラ校員及ヒ本科予科ノ生徒ノ用ニ供スル者ナ

第二条 和漢籍ハ毎水曜日ノ午後一時ヨリ二時迄ヲ貸与ノ時間トシ

洋籍ハ月水金ノ午後一時ヨリ二時マテヲ貸与ノ時間トス

但シ洋籍ハ休課中毎水曜日ノミトス

第三条 課業書ハ學季ノ始メニ貸与シ學季ノ終ニ返納セシムヘシ

第四条 書籍貸置ノ期限ハ和漢籍ハ滿二週間トシ洋籍ハ滿四週間ト

ス期限滿ツルトキハ必ス返納スヘシ期限滿チ他ニ該書籍借用ヲ願

フ者ナキトキハ証書更正スヘシ

〔但教場及ヒ事務上ニ要スルトキハ期限内ト雖トモ返納セシム

ヘシ〕

第五条 課業外ニ貸与スル書籍ハ和漢籍一名ニ付二部冊数多キ部類

ハ十五冊ヲ限リ洋籍ハ教官六冊其他ハ二冊ヲ限リトス

但シ教場及ヒ事務上ニ要スル書籍ハ此限リニアラス

第六条 本地在留ノ本省官吏ニシテ書籍借用セント欲スル者ハ貸与

日ノ前ニ願書ヲ差出シ校長許可ノ上貸与スベシ

第七条 本校卒業生ニシテ本地ニ在留スル者ハ生徒課業外ノ書籍ト

同一ノ部数ヲ貸与スヘシ

第八条 校員及ヒ生徒ハ借用証江見留印ヲ用キ卒業生及ヒ本省官吏

ハ保証人并ニ本人ノ住所番号実印アル証書ヲ指出スヘシ

但証書ヘハ書目及ヒ番号冊数且ツ年月日等明瞭記載スヘシ

第九条 貸与ノ書籍ヲ破毀遺失及ヒ汚染スルトキハ代償セシムベシ

第十条 借用期限ヲ經過シタル者ハ一日ニ付一週間ノ貸与ヲ禁ズ

但教場及ヒ事務上ニ要スルトキハ此限ニアラス

明治十七年十月二十九日

札幌農学校

〔農〇二五〕

五六二 演武整列規定

演武整列規定

一 演武時間五分前ニ於テ各級生徒ハ予定ノ場所ニ並列センタメ武

装ヲ整ヒ銃器ヲ掃ヒ出場ノ用意ヲナシ置ク可キ事

一 毎時間演武場屋上ノ鳴鐘ニ從ヒ各生徒ハ神速整列場ニ出揃フヘ

キ事

一 学科講習ノ日ト雖モ其用意出揃ノ義ハ前二条ノ如クスヘキモノ

ニシテ唯武装シ整列スルニ換ヘ筆紙ヲ携帯シテ講堂ニ至ルヲ異ナ

リトスル事

一 各級生徒ヲ一中隊ニ見做シ番号ヲ極メ部隊ヲ定ム故ニ居常一隊

ノ教練ヲ要スル乎或ハ非常ヲ戒メンタメ急集合ノ号鐘ヲナストキ
ハ予定ノ整列場ニ集合スヘキ事

一 急集合ノ号鐘ハ事務所前ナル半鐘ヲシテ引続キ打タシム然ルト
キハ頓ニ武装シ三分間ニ駆足ヲ以テ必ス整列ス可キ事

一 整列場ハ生徒舍前表門二個ノ間ニ在テ北ヲ右翌トシ路上ニ面シ
整列スヘキ事

已上

明治十七年十月三十一日

〔農一八九〕

五六三 和漢籍目錄

明治十七年十月調査

和漢籍目錄

農書部

第三十号 植物学 全三冊 一部

第四十六号 地質学 全二冊 二〃

同八十一号 西洋開拓新説 同 三〃

同九十三号 泰西農学初篇 一〃

同百五十一号 蚕種説 同 二冊 同

〔朱書〕一明治六年九月即チ財産調査後更ニ初篇ヨリ三篇
及ヒ附録迄都合八冊校員ヨリ出ツ依テ附記ス

同二百五十二〃	養蚕秘録	全三冊同	同三百四十六〃	勸農新書	全二冊同
第六十七号	雀糞論説	全一冊一部	同三百四十七〃	桑苗簾伏方法	全一冊同
同二十九〃	西洋水利新説	全三冊三〃	第三百四十八〃	煙草録	全一冊同
同三百廿七〃	欽定授時通考	全廿四冊一〃	同三百四十九〃	種麻要編	同
同三百廿九〃	農事主訣	全一冊同	同三百五十一〃	成形図説	全十五冊同
同三百三十〃	日本産物誌	全十一冊同	同三百五十四〃	草木六部耕種法	全十六冊同
同三百卅一〃	隄防溝洫誌	全四冊同	同三百五十五〃	蚕桑輯要和解	全三冊同
同三百卅二〃	漁村維持法	全二冊同	同三百五十六〃	養蚕摘要	同
第三百卅三号	培養秘録	全四冊一部	同三百五十八〃	農家益經トモ	全七冊同
同三百卅四〃	稲苗新語	全一冊同	第三百五十九号	農家業事前後篇トモ	全十冊一部
同三百卅六〃	垂統秘録	同	同三百六十三〃	広益国産考	全八冊同
同三百卅七〃	田畯年中行事	同	同三百六十四〃	農業全書	全十一冊同
同三百卅八〃	化育論	全三冊同	同三百六十五〃	養蚕新論続篇トモ	全五冊同
同三百卅九〃	農家永統救助講法綴	全一冊同	同三百六十六〃	山林新説前後	全四冊同
同三百四十〃	勸農雜話	同	同三百六十八〃	本朝食鑑	全五冊同
第三百四十一号	農家矩	全三冊一部	同三百六十九〃	百品考	全四冊同
同三百四十二〃	耕作必用	全二冊同	第三百七十号	綿圃要務	全二冊一部
同三百四十三〃	農家備要	全五冊同	同三百七十一〃	欽定康儋録	全六冊同
同三百四十四〃	農業自得	全一冊同	同三百七十二〃	土性辨	全三冊同
同三百四十五〃	農工全書	全五冊同	同三百七十五〃	茶業必要	全二冊同

同 七 //	農政垂統記	全 四 冊 同	同三百八十六 //	穂に穂	全 一 冊 同
同六十九 //	英國農業篇	全 十一 冊 同	同三百九十 //	農業余話抄	同 同 同
同七十八 //	逸農事図解	附全 三十 冊 同	同三百九十一 //	家畜食物論	同 同 同
第七十九号	勸業報告ノ内人工孵卵法	全 一 冊 一部	同三百九十二 //	山蚕養法	同 同 同
同 八十 //	明治七年府県物産表	同 同 同	第三百九十三号	農隙余談	全 一 冊 一部
同八十三 //	加葡萄栽培書	全 五 冊 同	同三百九十四 //	牧畜叢談 _{自一 至三} 号	全 一 冊 同
同八十八 //	草木移植心得	全 一 冊 同	同三百九十七 //	養蚕理解	同 同 同
同九十二 //	茶務僉載	同 同 同	同三百九十九 //	茶説集成	全 二 冊 同
同九十四 //	蘆粟裁製簡易法附録トモ	全 二 冊 同	同 四百 //	荒政要覽	同 同 同
同九十六 //	紀州柑橘録	全 一 冊 同	同四百一 //	葡萄培養法統篇トモ	全 四 冊 同
第百卅四号	全国農産表	全 二 冊 一部	同四百三 //	斉民要術	全 五 冊 同
同百四十七 //	地質調査報文分析ノ部	全 一 冊 同	第四百四号	農業花暦	全 一 冊 同
同百五十二 //	養豚説略	全 二 冊 同	同四百五 //	農政全書	全 廿四 冊 同
同三百七十七 //	土木工要録	全五冊 _{内附録 二冊} 同	同四百六 //	百工新書	全 五 冊 同
同三百七十九 //	救荒便覽	全 三 冊 同	同四百七 //	天蚕新論	全 一 冊 同
同三百八十 //	農家調宝記	全 五 冊 同	同四百十 //	養蚕全書	同 同 同
三百八十一 //	農政本論	全 八 冊 同	同四百十一 //	養蚕集説	同 同 同
第三百八十三号	農家必読	全 三 冊 一部	改四百十三 //	諸菜譜	全 三 冊 同
同三百八十四 //	養蚕秘録	同 同 同	第四百十二号	海産論	全 一 冊 同
同三百八十五 //	学業捷徑	全 二 冊 同	第三百三十五 //	土壤篇	全 一 冊 同

全 一 冊 同
二十年十一月一部増加
全 一 冊 同

第五百四十七号	乙 農務觀察記	全	三	冊	一部	第六百三	育蚕要旨和解	一	冊	一部
同五百四十八	地質調查報文分析之部	全	二	冊	同	第六百十七	日本米作法	同	同	同
同五百四十九	楮樹栽培実況	全	一	冊	同	第六百三十三	養蚕原論	同	同	同
同五百五十	穀菜耕作表	全	一	葉	同					
同五百五十一	杞柳栽培製造法	同			同	獸医書部及ヒ動物書				
同五百五十二	人工孵卵図解	同			同	第三百五十二号	生理学	全	二	冊 一部
同五百五十三	製糖試験録補遺トモ	全	二	冊	同	同三百五十三	医科全書解剖篇図譜	全	七	冊 同
第五百五十四号	害虫図解説	全	一	冊	一部	同三百五十七	相馬学	全	二	冊 同
同五百五十五	農業新書卷ノ一	同			同	同三百六十七	医科全書	全	十二	冊 同
同五百五十六	哥田圃虫書	同			同	同三百七十三	医科全書解剖篇図譜	全	十六	冊 同
第五百七十	工芸志料	全	二	冊	同	同三百七十六	改訂医科全書附録トモ	全	廿八	冊
第五百七十三	有用木材捷覧	全	一	冊	同	第九十七	獸医全書	全	二	冊 一部
第五百八十五	種物時時一覽	全	一	枚	同	同百十八	牛病通論	同		同
第五百九十三号	農業教授書	全	三	冊	同	同三百七十八	馬療新論	同		同
第五百六十五	開拓使事業報告	全	七	冊	二部	同三百八十七	養馬新論	全	一	冊 同
第五百九十五	中 蚕事要録	全	一	冊	一部	同三百八十八	馬原病学	同		同
第五百九十七	普通金石学	同			同	同三百八十九	獸類藥物学	同		同
第五百九十九	工学字彙	同			同	同三百九十五	獸類治療小編	同		同
第五百四十八	牧羊手引草	同			同	第三百九十八号	獸類藥法書	全	二	冊 一部
第四百三十七	米國蘆粟裁製試験表	全	老	帖	同	同四百八	陸軍獸医雜誌自一十二号	全	十二	冊

同四百三十八〃	牛病通論	全二冊	一部	第五百九十四	音釈附日本薬局方	全一冊	一部
同四百廿九〃	仮名安駢集	全六冊	同	第五百六	羊病治療新書	同	同
同四百五十五〃	普通動物学 〔朱書〕廿年五月一部増加ス	全一冊	同部				
同四百四十二〃	馬学説約附図トモ	全二冊	同部	本草部			
同四百六十三〃	厩馬新論	全一冊	同部	第三百六十号	秘伝花鏡	全六冊	一部
第	全体新論	全二冊	二部	同三百六十一〃	大和本草〔附録共〕 〔加筆〕	全十冊	同
同四百八十九〃	解剖図	同	一部	同三百六十二〃	重訂本草綱目啓蒙図譜トモ	全二十四冊	同
同四百九十〃	解剖組織論	同四冊	同部	同三百七十四〃	救荒本草	全八冊	同
同四百九十一〃	改定医科全書解剖篇	同廿七冊	同部	同百七十八〃	日本植物図説	全一冊	同
同四百九十二〃	達爾頓氏生理学	同五冊	同部	同百七十九〃	華彙	全八冊	同
同五百廿九〃	伯樂秘鑑	同二冊	同部	第二百三十号	本草綱目	全四十二冊	一部
同五百廿八〃	相馬図解	同	同部	同二百九十六〃	秘伝花鏡	全六冊	同
第五百廿六〃	琉球馬書	同	一部	同改四百十四〃	草本性譜	全三冊	同
同五百廿七〃	騏驎全書	同	一部	同二百廿六〃	佩文齋広群芳譜	全四十八冊	二〃
同五百五十七〃	獣医全書	同	同部	同四百廿四〃	本草図譜	全四十七冊	一〃
同五百五十八〃	動物書	全一冊	同部	同四百五十七〃	有毒草木図説	全二冊	二
同五百七十二〃	動植物採集標本製作法	全一冊	同部	同四百九十六〃	日本植物名彙洋本	全一冊	同
同五百七十四〃	動物訓蒙	全一冊	同部	第五百六十二〃	植物書	全一冊	一部
同五百七十五	動物学	全二冊	同部	第五百六十四〃	植物標品目録	全一冊	一部
第五百八十七〃	動物画図	全廿五枚	一部	第五百六十六	小石川植物園草木図説	全二冊	同

「十八年四月ヨリ六月マテ五篇六篇合テ六冊着セリ」

同四百十八〃	官民必携	全一冊	同十一〃	博物新編	全三冊十〃
同四百十九〃	刑法註釈	同一冊同	同十二〃	格物入門	全七冊十八〃
第四百廿号	治罪法註釈	全一冊一部	同四十三〃	化学入門	全七冊一〃
同二百十八〃	合衆国政治小学	全二冊同	同四十七〃	化学通	全二冊二〃
同四百八十〃	国憲汎論上中下洋本	全三冊同	第四十八号	究理図解	全三冊一部
同四百八十六〃	仏国森林法洋本	全一冊同	同九十〃	博物新篇訳解	全五冊三〃
同四百八十七〃	本邦法令摘要洋本	全一冊同	同百四十九〃	舍密局必携	全三冊一〃
同四百九十三〃	森林保護要略洋本	全一冊同	同百五十〃	化学訓蒙	全一冊二〃
同四百九十四〃	租税論洋本	全一冊同	同百六十一〃	物理楷梯	全三冊一〃
第五百三十二号	内国統計全書	全一冊一部	同三百十九〃	博物新編補遺	全三冊同
同五百 ^{三十二} 廿四〃	法令全書	全十二冊同	同九十八〃	舍密開宗	全七冊同
同五百九十二	訴訟法草案	全一冊同	第廿一号	理学適要 ^[マツ]	全一冊六部
同六百七	日本第六統計年鑑	同	同百三十八〃	開物叢説	全二冊九十〃
同六百九	貿易備考	同	同四百十五〃	有機化学 ^{後前}	同
同六百十	諸國条約彙纂	同	同四百十六〃	新式化学	全一冊同
同六百四十六	但来先生答問書	全三冊同	同四百七十六〃	化学日記	全一冊同
			同六百四十三〃	試験楷梯	全四冊同
			同六百四十四	定試礦撰要前編	全三冊同
第九号	気海観瀾広義	全五冊九部			
同十〃	気海観瀾	全一冊一〃			

究理書部
化学書部

数学書部

第百廿三號	幾何實用	全	一冊	四部	第七十六號	四書輯疏	全	二十九冊	五部
同百廿八〃	幾何學	同		十三〃	同九十五〃	古文孝經	全	一冊	二〃
同百七十三〃	代數學	全	六冊	一〃	同百十五〃	欽定四經	全	百冊	一〃
同百七十五〃	則古昔齊算學	全	六冊	同	同百三十一〃	四書集註十九年八月四部購入	全	十冊	十七〃
同百七十六〃	算學啓蒙	全	二冊	同	同百卅二〃	五經	全	十一冊	三〃
同二百四十一〃	万延塵劫記	全	一冊	四〃	同二百十七〃	古易斷	全	十二冊	二〃
第二百八十五號	算法地方大成	全	五冊	一部	第二百十八號	礼記集註	全	十五冊	二部
同二百九十八〃	西洋度量考	全	一冊	同	同二百六十六〃	四經典余師	全	三十一冊	一〃
同三百十三〃	數學教授本	全	四冊	六〃	同二百七十一〃	考經參攷	全	一冊	同
同百七十二〃	代微積拾級	全	三冊	一〃	同二百七十六〃	書經集註	全	六冊	二〃
同百七十四〃	勾股六術	全	一冊	同	同二百八十二〃	春秋集註	全	十五冊	同
同百七十七〃	幾何原本	全	八冊	同	同二百九十二〃	詩經集註	全	八冊	同
同四百廿〃	分數術	全	一冊	同	同三百十八〃	易經集註	全	十三冊	同
同四百六十九號	突氏幾何學	全	四冊	一部	第二百五十四號	大學衍義補	全	六十冊	一部
同百三十三〃	算法新書	合本	一冊	同	同四百六十〃	倍因教育學	全	六冊	同
第五百廿九	筆算訓蒙對式トモ	二	冊	同	同五百三十一〃	倫理學	全	一冊	同
第六百〇〇	算術教科書	一	冊	同	同五百十八號	小學	全	二冊	同
第六百〇一	代數教科書	二	冊	同	同五百二十六號	論語微	全	五冊	同
第六百三拾七	中等算術教科書	上卷	一冊	同	同六百四十號	心身相関之理	全	一冊	同

和史部

第一	号	国史略	全五册	廿一部	同百七	夕張日誌	同
第二	号	日本外史	全十二册	十四	第百八号	後方羊蹄日誌	同
同四	号	皇朝史略	全十二册	十四部	同百九	天塩日誌	同
同十七	号	日本政記 〔朱書〕 〔内小本四部〕 十九年三月拾貳部購入外三部加入	全八册	廿式	同百十一	唐太日誌	全二册
同十九	号	統皇朝史略	全五册	三	同百十三	十勝日誌	全一册
同二十	号	近古史談	全四册	一	同百十	北蝦夷図説	全四册
第三十一	号	名和氏紀事	全二册	一部	同百三十九	小本皇朝史略 〔私藏〕 〔朱書〕	全六册
同三十二	号	神皇正統記	全六册	同	同百四十	同統皇朝史略同	全四册
同三十三	号	標註令義解校本	同	二	同百四十一	令義解	全十册
同三十四	号	標註職原抄校本	全二册	一	同百六十九	和名類聚抄	全五册
同五十一	号	大日本史	全百册	二	同百七十一	新撰姓氏鑑	全四册
同五十五	号	蝦夷語箋	全一册	一	同百八十二	統国史略	全五册
同九十九	号	西蝦夷日誌	全一册	一	同百八十三	同 後篇	同 九
第百一	号	北蝦夷余誌	全一册	一部	同百九十二	南木誌	同 一
同百二	号	知床日誌	同	同	同百九十三	聖武記採要 〔朱書〕十八年六月十一部購入〕 詩文集ノ部ニ入ルベキモノ	全三册
同百三	号	石狩日誌	同	同	第百一十一号	征韓偉略	全五册
同百四	号	久摺日誌	同	同	同二百十六	太政官日誌	全六十九册
同百五	号	蝦夷誌	同	同	同二百廿三	藩翰譜	全十八册
同百六	号	納紗布日誌	同	同	同二百廿八	日本書記 〔朱書〕	全十册
同百六	号	納紗布日誌	同	同	同二百三十一	保建太記	全二册

同二百七十二〃	古事記伝	全四十四冊	同	同五百七十六	蝦夷今昔物語	同	一冊	同
同二百七十九〃	延喜式	全五十冊	同	同五百三十九	内国史略	同	四冊	二十二
第二百八十三号	三代実録	全二十冊	一部	同五百十四	小学国史	同	十冊	一一
同四百廿一〃	蝦夷風俗彙纂 前後	同	同	第六百〇四	北海道地誌要領	一	冊	一部
同二十八〃	明良洪範	全十六冊	同	第六百拾一	読史余論	六	冊	一部
同 百 〃	東蝦夷日誌 初篇一冊 五篇一冊	全二冊	同	第六百拾二	国号考	一	冊	同
同四百廿五〃	北海道志	全廿五冊	同	第六百拾三	古史通	四	冊	同
同四百廿六〃	太平記綱目	全六十冊	同	第六百四十一	日本近世戰史附圖共	二	冊	二部
同四百廿七〃	源平盛衰記	全廿五冊	同	第六百四十八	日本积名	三	冊	部
第四百三十九号	日本野史	全百冊	一部	第六百四十九	日本人物史	七	冊	部
第四百四十六〃	尊攘紀事補遺 トモ	全六冊	一部	第六百五十	本朝通紀	四十一	冊	部
同四百六十二〃	琉球藩史	同二冊	同	第六百五十四	逸史	七	冊	部
同四百六十四〃	文明東漸史	同一冊	二部	第六百五十八	東鑑	五十二	冊	部
同四百六十五〃	続日本後紀	同十冊	同					
同四百七十〃	文徳実録	同	同					
同四百七十三〃	続日本紀	同二十冊	同					
第四百七十四号	日本後紀	全十冊	一部	第三号	綱鑑易知録	全五十冊	十一冊	部
同四百六十八〃	鎌倉史	同	同	同三百廿二〃	明鑑易知録	全七冊	十四〃	
同五百廿六〃	近世先哲叢談	全二冊	同	同百七十〃	清鑑易知録	全八冊	二〃	
同五百廿七〃	続近世先哲叢談	同	同	同百八十五〃	歴史綱鑑補	全廿冊	一〃	
				同百十六〃	資治通鑑	全百四十八冊	同	

外ニ附録一冊目錄三冊アリ

漢史部

同 百 十 九	宋元通鑑	全 四 十 八 冊 二	同 五 百	梁書	全 八 冊 同
第 百 八 十 七 号	春秋左氏伝校本八部 〔加筆〕同五百十三註十五冊二部 〔朱書〕同五百十五林註十五冊一部 〔別〕明治十七年十一月春秋左氏伝校本十五部購入	全 十 五 冊 八 部	同 五 百 一	周書	全 六 冊 同
同 百 二 十	左氏伝輯釈	全 廿 一 冊 一	同 五 百 二	陳書	全 四 冊 同
同 二 百 一	国語定本	全 六 冊 同	第 五 百 六 号	〔安南史外二附國武帖〕 台灣風土記	全 一 冊 一 部
同 八 十 四	史記評林	全 五 十 冊 二 部	同 五 百 十 二	清国漫遊記	全 一 冊 同
同 百 十 四	前漢書	全 五 十 冊 二	同 五 百 三 十 三	後漢書批評	全 一 冊 同
同 二 百 七 十 七	五代史	全 十 五 冊 一	同 五 百 三 十 四	南宋書	全 一 冊 同
同 二 百 八 十 七	明朝紀事	全 三 十 冊 同	同 五 百 十 二	東都事略	全 一 冊 同
第 二 百 廿 九 号	二十二史劄記	全 十 八 冊 一 部	同 五 百 三 十 五	〔加筆〕〔加筆〕 〔大〕金国史	全 一 冊 同
同 十 五	十八史略	全 七 冊 十 四	同 五 百 三 十 六	元史類編	全 一 冊 同
同 十 六	元明史略	全 四 冊 十	同 五 百 三 十 七	遼史	全 一 冊 同
同 百 八 十 六	世說新語補	全 十 冊 一	第 五 百 三 十 八 号	南史	全 一 冊 一 部
同 二 百 十 九	戰国策	全 十 五 冊 同	同 五 百 三 十 九	宋書	同 冊 同
同 百 九 十 八	錢註蒙求	全 三 冊 同	同 五 百 四 十	南齊書	全 一 冊 同
同 二 百 三 十 七	東洋記事	全 二 冊 同	同 五 百 四 十 一	北史	全 一 冊 同
第 三 百 廿 八 号	錢註蒙求	全 三 冊 廿 部	同 五 百 四 十 二	魏書	全 一 冊 同
同 三 百 九 十 六	清史寧要	全 六 冊 八	同 五 百 四 十 三	北齊書	全 一 冊 同
同 四 百 九	通鑑寧要	全 十 五 冊 十	同 五 百 四 十 四	隋書	全 一 冊 同
同 四 百 七 十 九	明史 箱入	全 百 廿 冊 一 部	同 六 百 五 十 五	万姓統譜	全 一 冊 同

西史部

第六号	仏蘭西志	全二冊一部
同十三	瀛環誌略	全十冊五
同廿一	聯邦史略	全二冊三
同廿三	西洋史記	全十一冊四
同廿七	英國誌	全五冊二
同三十五	李仙戰記	全六冊同
第四十四号	西洋英傑伝	全四冊二部
同四十五	五洲記事	全二冊一
同六十八	近世史談	全一冊同
同百廿五	西洋新書初号	全二冊同
同百六十三	古今万国綱鑑錄	全三冊同
同二百十	万国新史前篇	全四冊同
同二百十三	西洋聞見錄前後篇	全八冊同
第二百四十六号	海国図志	全十三冊一部
同二百八十	英國史略	全四冊同
同二百九十九	西洋易知錄	全六冊二
同三百	西史要	全三冊同
同三百一	西洋事情 初篇外篇	全六冊一
同三百三	日耳曼史略	全二冊同

同三百十四 魯国事情

第八十六号 西国立志編

同三百九 西史年表

同三百八十八 魯国沿革史

同六百三十八 万国歴史

同六百三十九 基督千年期前再臨説

地理書部

第廿二号 地理全志後篇トモ

同三十七 坤輿図識

同三十九 実測日本地圖

同四十二 大日本沿海実測録

同六十一 蝦夷闔境輿地全図

同七十一 蝦夷行程記

第八十二号 地学事始

同八十五 東京大絵図

同百三十 新刊輿地全図

同百三十六 兵要日本地理小誌

同百五十五 支那全図

同百五十八 唐土歴代州郡沿革図

同 同

全十一冊二部

全三冊同

全一冊一部

全一冊一部

全一冊一部

全十冊二部

全七冊一

全四冊同

全十四冊同

全一冊同

全二冊同

全三冊十六部

全一冊一

全一冊同

全三冊同

全一冊同

同 同

同百五十九〃	皇朝歷代沿革圖解	同	同	同二百八〃	杜工部集	全	八	冊	同		
第二百四十〃	地球度割圖解	全	一	冊	一部	同二百九〃	唐宋八大家文	全	十六	冊	增評二部
同三百八〃	西洋沿革圖說附表	同	同	同二百廿二〃	盧孝曾詩選	全	四	冊	一〃		
同三百廿七〃	輿地誌略	全	八	冊	五〃	同二百三十六〃	唐詩選	全	一	冊	同
同六十四〃	大日本國郡輿地路程圖	全	一	帖	二〃	同二百五十九〃	陸宣公奏議	全	六	冊	同
同二百廿四〃	八紘通誌 初篇二篇	全	六	冊	一〃	第二百九十三号	朱子文集	全	四十	冊	一部
同五百八十二	東京公園地実測圖 上野公園地実測圖	全	一	帖	一〃	同二百六十九〃	原古編	全	二	冊	同
第六百〇四	北海道地誌要領	一	冊	冊	一	同百八十九〃	新策正本	全	三	冊	同
第六百拾五	大日本國誌安房ノ部	三	冊	冊	老部	同百八十四〃	文章軌範 正統中二小本五部 〔朱書〕別二十七年十一月十日二本十四部購入ル	全	六	冊	十一〃
第六百四十五	日本地理全圖	老	冊	帖	同	同二百七十四〃	高青邱詩淳	全	四	冊	一〃
						同四百九十九〃	清名家文鈔	全	四	冊	同
						同二百五十八〃	蘇文忠公文鈔 〔朱書〕右八十二年財產調査後出ス	全	十二	冊	同
第百九十一号	通議	全	三	冊	一部	第四百六十一号	汪堯峰文選要	全	二	冊	一部
同百九十四〃	千慮策	同	同	同	同	第六百二十号	二十七松堂文集	全	十	冊	一部
同百九十五〃	三体詩	同	同	同	同	第六百五十一号	王陽明文錄 内文錄八冊 別錄十二冊	全	二十	冊	一部
同百九十七〃	文選正文	全	十三	冊	同	第六百二十一号	東萊博議	全	四	冊	一部
同二百〃	魏叔子文鈔	全	六	冊	二〃	第六百五十七号	徂徠集 内文六冊 書八冊	全	十七	冊	一部
同二百四〃	蘇文定公文抄	全	八	冊	一〃	第六百二十二号	文章一隅	全	一	冊	一部
第二百六号	方正學文粹	全	四	冊	一部	第六百二十三号	史論	全	二	冊	一部
同二百七〃	蘇文公文抄	同	同	同	同	第六百二十四号	省儉錄	全	一	冊	一部

詩文集部
策議部

字書部

第廿四号	康熙字典小本	全四十冊	一部	同四百廿三	莊子註疏	全十三冊	同
同廿五	同 大本	全四十一冊	同	同三百四	西音發微	全二冊	同
同百三十六	玉篇	全十二冊	二	同百六十四	拾芥抄	全六冊	同
同三十六	正字玉篇	全一冊	五	同二百四十九	家作雛形	全四冊	同
同三十八	雜字類編	全二冊	一	第四百六十七号	棧雲峽雨日記	全三冊	一部
同百四十三	淵鑑類函	全二百冊	同	同四百七十七	朝鮮事情	同	一冊
第二百廿五	佩文韻府	全二百冊	一部	同四百九十八	節馬考	同	二冊
同六百八	大日本人名辭書	四冊	同	同五百四十五	增補新撰中外年表	同	一冊
				同五百三十一	北海道要覽	同	二冊
				同五百五十九	浦塩斯德紀行	全一冊	同
				同五百六十	養魚法一覽	全一冊	同

雜書部

第六十五号	和漢名數大全	全一冊	後二部	第五百六十一号	農書要覽	全一冊	一部
同百五十六	新刻書目便覽	同	一	第五百六十七号	博物叢書	全五冊	同
同二百二	七書	全二冊	同	第五百六十八号	博物館列品目錄	全六冊	同
同二百卅三	兵要錄	全五冊	同	第五百六十九号	博物館書目	全三冊	同
同百六十	楷行薈編	全十四冊	同	第五百七十七号	日本金石產地	全一冊	同
同百六十二	行書類纂	全十二冊	同	第五百七十八号	金石学	全一冊	二部
第三百八十二号	能毒魚かゝみ	全二冊	一部	第五百七十九号	博物館書目解題略	全五冊	一部
同四百二	日東魚譜	全五冊	同	第五百八十号	英国「ドクトル」セル「同行報告書	全一冊	同
同三百廿	和漢年契	全一冊	同	第五百八十一号	博物雜誌	全五冊	同

第五百八十三号	教草一覽	廿二	帙	同四百四十七〃	兵学教程読本	全二十冊	外二帖	十部
第五百八十六号	博物館列品図録	一	枚	同四百四十八〃	兵略戦術実施字	卷ノ一		十五〃
第五百八十八号	博物館分類一覽表	一	枚	同四百四十九〃	野外演習軌典第一版	全一冊		同
第五百八十九号	金石対名表	全一	冊同	同四百五十〃	射の教程第二版	全一冊		同
第五百九十六	日本食志	全一	冊一部	第四百五十一号	臨時築城教程第一版	全一冊		十五部
第六百〇二	獵犬訓練説	同	同	同四百五十二〃	散兵用法	同		同
第六百〇六	石炭編図共	二	冊同	同四百五十三〃	参謀必携	同		一部
第六百十九	二宮翁夜話	二	冊同	同四百五十四〃	陣中必携	同		十五〃
第六百拾八	報徳記	全一	冊同	同四百五十六	軍制綱領	同		一〃
第六百拾四	重色目	同	同	同五百四十六号	欧洲各国海陸軍制一覽表	同		同
第六百拾六	废物利用	二	冊同					
第六百三拾二号	職業教育論	全一	冊老部	子類部				
第六百三拾四号	商業沿革史	全二	冊老部	第四百廿三号	莊子註疏	全十三冊		一部
第六百三拾六号	商業工芸史	同	老部	同四百七十二〃	管子纂話	全十二冊		同
第六百四十二号	百科全書	十二	冊老部	同四百七十五〃	荀子増註	全十一冊		同
第六百四十七号	愈愚隨筆	同	老部	同五百七〃	韓非子解詁	全十冊		同
				同五百二十七〃	老子經	全二冊		同
				同六百五十二〃	文中子	全四冊		同
第四百四拾三号	步兵操典	全三	冊三十部	第六百五十三号	張注列子	四冊		部
第四百四十四号	步兵内務書第二版	全一	冊七九部	第六百五十六号	全文抱朴子	八冊		部

兵書ノ部

歌詞ノ部

第五百八	玉あられ	全	一冊	一部
第五百九	字音かなつかひ	同	同	
第五百拾六	万葉集略解	全	三十二冊	同
第五百拾七	言葉のやちまた	全	二冊	同
第五百拾九	言葉の玉緒	全	七冊	同
第五百二十	冠辞考	全	十冊	同
第五百二十三	冠辞統紹	全	七冊	一部
第五百二十八	漢字三音考	全	一冊	同

* 十四年ヨリ十八年末迄購入和漢籍総数 廿年二月調

千〇〇六部

雑書 十五部

十九年中購入分総数

七拾六部

雑書 六部

〔農二〇五〕

五六四 兵学教授に関する意見

十七年十一月一日札幌ニ於テ

森校長

ブルークス

本校兵学科ノ件ニ付予カ越組ノ罪ヲ恕セラレンコトヲ信シテ茲ニ建議スル所アラントス蓋シ從來該科ノ業ハ萎靡進マス其当然ノ目的ヲ距ルコト太タ遠カリシカ如シ今ヤ新任教員其ノ授業ヲ始メントスルノ時ニ際シ同様ノ米国学校ニ生徒タリシ予カ自己ノ経験及目撃上ニ基キ数項ノ勸告ヲ為スヘキ好機會ト思量セリ即チ左ニ条陳スル所ニ注意スルトキハ該科ノ利益ト生徒ノ學業上ニ勉勵心ヲ増加スルコト大ナルヘシト信スルナリ

一 兵学教員各舎ヲ巡視スルトキハ二年生一名同行スヘシ此巡視ハ少クモ一週一回ヲ下ラス且ツ各舎ニハ其居住ノ生徒立会フヘシ
 二 生徒衣服ニ從來ヨリ一層注意ヲ加ヘ其整頓ヲ要シ操練ノ節ハ必ス制服ヲ着シ靴ハ足ニ密着シ踵辺ニ於テ緩鬆ナラシムヘカラス容貌ノ嚴整ナルハ最モ全級ノ氣勢ヲ励マスモノナリ
 三 日々体操ヲ施シ身体ヲ健全ニスヘシ身体健全ナラサレハ良好ノ操練ヲ行フ能ハス

四 陸軍ノ三兵即チ歩騎砲ニ皆注意シ銃槍軍刀及大砲ノ演習ヲ行フヘシ如此其業ヲ種々ニスルトキハ大ニ該科ノ趣味ヲ増加スヘシ
 五 予科第一級ノ生徒モ亦本科生徒ト共ニ操練スヘシ如此スルトキハ予科生徒ヲ益スルノミナラス員数ヲ増加シテ其少数ニテハ難行操練ヲ為スコトヲ得ヘシ

六 三年生若クハ二年生ニシテ操練ニ特達セルモノハ教員監督ノ下

ニ在テ初年生及子科生ヲ操練セシムヘシ如此スルトキハ大ニ自強ノ精神ヲ發揮スヘシ

七 生徒ハ其惣員定數ノ士官ヲ得ル丈ハ日本陸軍ノ定數ニ編製スヘシ

シ高等ノ士官タラント欲スルノ望ハ大ニ熟練ヲ奨励スベシ

八 夏期休業中若干日ノ間總教員及生徒ハ近方便宜ノ地ヲ撰ヒ兵法

上ノ野營ヲ為サシムヘシ此時間ハ空シク消費スルモノニ非スシテ

兵事ノ教練植物地質動物學見本等ノ採集ニ從事シ且ツ如此野營ハ

健全ナル變化ヲ呈シ生徒ノ兵事ニ関スル智識ヲ得ントスルノ熱心

ヲ生シ年中之ヲ期待スルニ至ルヘシ

九 同シ目的即チ勉強心ヲ増加センカ為ニハ該教員及定數ノ士官ト

共ニ公式祝砲等ニ加ハルヲ有益トス

十 生徒ノ士官タルモノニハ其格ニ隨テ刀劍等ノ類ヲ以テ區別ヲ表

章スヘシ

十一 教員ニ於テモ(予ノ説ニテハ)操練ノ節ハ必ス制服ヲ着シ兵

事上ノ体勢ヲ保ツヘシ生徒ノ体勢ヲ正スニハ此例ヲ以テ示スヲ最

モ有効ナルモノトス

十二 「タクテツク」及他兵學ノ教授ニ於テモ一層注意ヲ為スヲ要ス

十三 兵學上ノ博物場モ漸次ニ蒐集アルヘシ

右ノ諸項ニ関シ注意ヲ請フカ為メニ其理由充分ニ詳述セサルハ冗長ニ涉ルヲ恐レテナリ然リト雖モ台下若シ此建議ヲ至要ト判定アルニ

於テハ更ニ親シク之ヲ詳解センコトハ予ノ好ム所ナリ兵學科最上ノ好結果ヲ切ニ希望シ謹テ建議ス

〔農二〇六一四〕

五五五 生徒徵兵検査に付伺

札幌農学校生徒徵兵検査之儀ニ付伺

徵兵令第十八条第三項ノ生徒ニシテ二ヶ年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ徵兵事務条例第三百三十二条ニ拠リ最寄徵兵検査所ニ於テ身体検査ノ上同令第三十一条ニ拠リ第一予備徵員ニ編入スヘキ義ニ有之然ルニ徵兵既行地府県在籍ノ者ニテ札幌農学校ニ於テ課程ヲ卒業シ尚札幌ニ寄留ノ者有之候処同所ノ儀ハ徵兵未行地ニ付最寄ニ検査所無之ヲ以テ既行地ノ検査所ニ召集セサルヲ得サル義ニ候得共既行地ノ検査所ニ召集スルトキハ数十里ノ往復ヲ為シ之ヲ現役ニ徵集スルニモ非ス検査ノ上直ニ予備徵員ニ編入スヘキモノニ有之且該校生徒ニ編入ノ節ハ一応身体ヲ検査シ編入スヘキ義ニモ可有之ニ付体格之不良ナル者ハ無之答ト存候間右等之モノハ身体検査ヲ要セス直ニ第一予備徵員ニ編入候様致度此段相同候也

明治十七年十一月四日

陸軍卿西郷從道

左大臣熾仁親王殿

〔朱書〕
「伺」趣聞届候事

明治十七年十一月廿六日

〔公文録三七六四〕

五五六 本科四年生の兵学授業時間増加の件同

明治十七年十一月五日

助教高田信清

校長

幹事

本科四年生之義ハ来ル十八年七月卒業終期ニ有之其月数僅カニ八ヶ月間ナルノミナラス一週二時間ノ演武今之レヲ時間ニ比スレハ六十八時間一日六時間ヲ以テ六ヶ月間ニ於テ生兵修業ス可キ軍隊ノ例ニ準セハ僅々十一日余也由之觀之歩兵操練術ノミナルモ教授スルニ苦ミ心痛罷在候幸ニ本科頭徴鏡術モ休業中ナレハ漸ク時間ニ余有アル哉ニモ奉存候間更ニ一週日中四時間ヲ増シ學術進歩ヲ計リ可然哉加之該生徒ニ於テモ夫是企望之旨同級生徒ニ代リ山口莊造ヨリ情請ノ次第モ有之旁勇進ノ情勢ヲ鼓舞シ至急該生徒ニ限り当分之内御施行相成度此段相伺候也

時間表

月曜日 自三時至四時

水曜日 同

木曜日 同

土曜日 同

〔農一七六〕

五六七 校園名称を所属農園と確定の儀同

北校庶第一〇四号

学第九拾三号

当校附屬園之義ハ從來校園又ハ農校園ト唱来候処右ハ英語ハコーレイジファーム之直訳ニテ文字甚タ不穩当ニ有之ニ付テハ以來札幌農学校所屬農園ト相称尚先般転轄相成候両場之儀モ別記之通り相称度此段相伺候也

明治十七年十一月十日

札幌農学校校長森源三

印

管理局長安田定則殿

札幌農学校所屬博物場

札幌農学校所屬農物試驗場

〔朱書〕
伺之趣聞届候事

明治十七年十二月十日

管理局長安田定則

印

〔農一三六〕

五六八 兵学教授に關するブルックスの意見に付所見

今茲ニ教師ブルックス氏ノ建議スル処アリ書ヲ訳シテ小官心得ノ爲メ特ニ此書ノ披見ヲ許サル信清謹テ其書ヲ閱シ爲メニ感スル処少ナシトセス蓋シ条項中米國文学学校生徒ノタメニ行ハル、所暨教師ノ經驗ト目撃上ニ止マリ我國制度ノ詳カナラサルト軍事ノ専門ナラサルトニ從テ或ハ行ハレサルニ適キコト間々有之哉不願陋見左ニ其条ヲ逐ヒ現行陸軍制ニ基キ解シテ以テ御參考ニ供セント欲ス閣下宜ク夫是ヲ恕セラレンコトヲ請フ

一 一項ニ於テハ軍隊起居ノ定則アリ譬ヘハ起床号音ニテ起キ寢具ヲ払ヒ器具ノ備ヘ方等形ノ如クスルヤ否分隊長之レヲ一見シ及ヒ其日ノ現役員ヲ調理ス亦日昼点呼ト称ヘ一聯隊ノ週番大尉之レヲ檢スタノ呼集ハ臥床時間ニ於テ現員ヲ檢スルタメ毎中隊ノ週番中少尉之レヲ檢ス毎土曜日ニ於テハ清潔檢査ナルモノアリ此時ニ限リ其中隊長兵舎ニ至リ銃器背囊及寢具兵舎等到ル処ノ掃除ノミナラス身体衣裝ノ清善ヲモ檢査スヘキノ法例アリ如斯場合ニ於テ士官室内ニ到ルトキ中隊長(大尉)ナレハ週番中少尉之レニ隨行シ小隊長(中少尉)ナレハ週番軍曹之レニ隨フ若シ分隊長(軍曹)ナレハ週番伍長之レニ隨フヲ法トス由之觀之教師ノ説此生徒ヲシテ常ニ軍隊ノ体度ニ慣レシム可キノ意ナル乎將タ士官ハ國家ノ柱望ニ

シテ容威嚴正ナルヲ示シ士氣ヲ振ハシムルノ意ニ出ツルヤ然リ而シテ本校生ノ如キハ其目途ニアルノミナラス能ク學芸ヲ修ムルモ未タ士官ニ任用証書ヲ与ヘシム可キ制規ヲモ無之以上ハ敢テ此法ヲ説クルモ益ナキ乎然トモ閣下他日ニ於テ望マシムル義在リ採択セラルハ亦此外ニアラン哉

一 二項ニ於テハ実ニ美ナリ依テ考フルニ定制ノ服ハ保存二期アリシノミナラス時々演習ニ用ユレハ破損多ク相成自然儀式等ノ際ニ於テモ只一枚ノミ彼是不都合ニ付士官学校或ハ戸山学校等ニ於テモ体操服ナルモノアリ其形チ本校農服ニ似タル所ナレハ幸ニ体操或ハ操練ノ際一齊ニ此農服ヲ着セシメ靴ハ半靴ニ限リ衣裝ヲ整ハシムヘシ然ルトキハ居常服裝ヲ一体ナラシメ隊伍ノ嚴正ヲ保チ且ツ定制ノ服モ其保存ヲ補ヒ両全ノ義ト思惟セラル、ナリ

一 三項ニ於テハ最モ然リ而シテ其時間ハ曩ニ上伸仕置キタルヲ以テ更ニ開陳セス

一 四項三兵學ノ言實ニ其道ヲ拡張増加スルニ似タリト雖トモ如何セン學術修業ノ年月僅少ニシテ施スニ術ナキ乎寧ロ歩兵一科ノ高尚ナルニ過キサラン然トモ戰略戰術ヲ解クニ方リテ自カラ諸兵連合ノ条項アレハ騎砲ノ効力及ヒ隊形ノ大意ハ知ル所アリ依テ歩兵一科ニテ然ルナラン哉

一 五項ニ於テハ独リ第一級ノ生徒ニ止マス各級生徒ニ体操ノミ御

施行アランコトヲ請フ是レ服制ニ於テ予科生ノ及ヒ難キ廉アラン
 哉然トモ此農服ハ各自ノ支費ニ属セス演武農芸用備品トナルノ以
 上ハ尤トモ一般ノ操練ヲ切望スル処ナリ果シテ此法ノ行ハル、ニ
 於テハ其結果実ニ著大ナラン乎

一 六項ノ趣旨ニ於テハ毫モ間然スルナシ然トモ二年三年ノ生徒ハ
 未タ熟達トスルニ足ラス或ハ其人ニシテ其益アルモ之レヲ受クル
 ノ生徒ハ操練ニ弊害ヲ遺スヤ必セリ加之甚シキハ士氣不振容儀
 不整ナルニ陥ラシム可キ乎信清惟フニ唯四年生ニノミ此法ノ行ハ
 レンコトヲ請フナリ

一 七項定数ノ士官ヲ部隊ノ編制ニ從ヒ常ニ定メシムルハ其人ヲ限
 リ隱当ナラサラン平寧口本校生徒ハ皆委ク士官ノ望ミヲ抱含セシ
 メ度故ニ時々ノ演習モ士官ノ作業ニ於テシ弥々増々目適ヲ大ニシ
 以テ獎勵セシメン哉然トモ高尚ノ学科ヲ極ムルハ一兵卒ノ業ヨリ
 基ク可キモノナレハ亦生兵ノ操練ヨリ熟達セサル可ラス夫レ是ヲ
 以テ其人ヲ限ラス順次其職務ヲ命セシムヘキナリ故ニ野營或ハ行
 軍等其隊伍ヲ編制スルトキニ於テハ刀劍等ヲ帶ハシムルモ実ニ可
 ラン哉

一 八項ニ於テハ実ニ然リ而シテ兵事上或ハ舍營或ハ露營ヲ布クコ
 トアリ就中夏季ハ氣候ノ宜シキヲ以テ露營ヲ布クニ如カス斯ノ如
 クスレハ會計上ハ勿論歟兵作業ヲ兼行シ及ヒ地形ニ応スル戰鬪術

ノミナラス本科植物採集ニ從事スルモ亦利スル所アラン依テ此演
 習ヲ行ハセラル、秋ニ方リ其野營ノ趣旨ヲ予言シ御參考ニ供スル
 ノミ

一 九項ノ趣旨ニ隨ヒ情々之レヲ考フレハ士官学校或ハ教導団生徒
 ト雖トモ公式隊列ニ加ハルコトナシ或ハ見學ノ趣意ヨリ其場ニ望
 マシムルコト有之ノミ故ニ敢テ説ナシ

一 十項ノ趣意ハ第七項ニ基キタレハ更ニ之レヲ開陳セス

一 十一項教員自カラ服裝ヲ正シ生徒ノ體勢ヲ矯正ス可キ言実ニ間
 然スルコトナシ然トモ軍裝ヲ着スルハ尚御教示ヲ請フナリ

一 十二項タクテツク及ヒ他兵學ノ教授ニ於テモ注意ヲ要スルノ語
 恐ラクハ其高尚ナランコトヲ望メリト信スルモ尚注意ノ語ニ於テ
 ハ更ニ説明ヲ欲スル所ナリ

一 十三項博物館ハ遺伝獎勵ノ効力甚タ多ク尤トモ望ム所ナリト雖
 トモ当地ノ如キハ未タ行ハレサル所アラン哉依テ所見ナキナリ
 右ノ諸項ハ教師ノ建言ニ從テ信清所見ヲ開陳スルノミ猶曩ニ上伸仕
 置候条項ヲ併セ至急御實施アランコトヲ請願ス云爾

明治十七年十一月二十三日

助教高田信清

校長森源三殿

五六九 演武授業時間増加の儀伺

明治十七年十二月三日

助教高田信清◎

校長◎(兼)

幹事◎(井川)

情々各級生徒ノ身体如何ヲ顧ルニ數年間於文學而已其心ヲ費セシヨ
 リ一週二時間ノ演武御実施相成居候得共且々只一週二回ナルヲ以テ
 其心ヲ演武ニ倚セシムル者ナキ哉意茲ニアラサレハ運動ヲナスモ其
 効驗ナキニ似加之運動寛慢ナルヨリ身体軟弱ニ陥ラシム乎所謂文學
 生徒ノ敵ナリト云ハサルヲ得ス既ニ頃日演武ノ時間僅カニ一時ナル
 モ其疲勞甚シキニ似或ハ休憩ヲ乞フ人アリ或ハ汗涸其勞ヲ凌ク者ア
 リ嗚呼命ヲ奉シ教練ヲ始メテ以來殆ント四十余日ニ至ルモ身体前日
 ニ異ナラス且ツ実科ノ進歩モ為メニ薄ラシム就而ハ各級生徒毎日三
 十分間宛諸種ノ運動ヲ与ヘ且ツ水土兩日之内氣候ト天氣トヲ見計ヒ
 諸種ノ演習及ヒ遊戲銃劍術等ヲ施行シ専ラ身体ヲ強健ニシ及ヒ士氣
 勇敢ナラシメ度奉存候間何卒当分之内一週四時間ニ御増設相成リ度
 相願候然ルトキハ稍演武ニ傾向スルニ邇シト雖トモ却テ其心ヲ壮快
 ナラシメハ文學ニ於テモ紀臆力ヲ増シ効驗著シキ義可有之ト推察仕
 候依之別紙日課表及ヒ時限制表相添此段相伺候也

〔別紙〕

演武授業時間表

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
二年生	初年生	／	二年生	初年生	各年生諸種ノ演習
一三級生	四一級生	／	三四級生	一三級生	各年生諸種ノ演習
／	／	各年生諸種ノ演習	四年生	四年生	／
／	／	／	初年生	二年生	／
初年生	二年生	／	／	／	／
四年生	四年生	／	／	／	／

表中予科ノ諸生ハ來ル十八年一月モ間ナキニヨリ越年ノ上之レヲ実
 施スルモノトス

〔農一七六〕

五七〇 明治一七年年報開申の件(二月九日起案)

学第百五号

十七年々報添書

昨年十二月一日より本年十一月三十日ニ至ル本校年報別冊之通謹テ
 開申仕候也

年月日

校長

局長

〔別紙〕

札幌農学校明治十七年々報（十二月一日調）

本年中学校処務ノ大要ハ概ネ平常ノ件ニシテ其授業上ニ於ケルモ亦定規ニ從テ履行シ惟世間教育ノ進歩ニ随ヒ課業ノ等位モ自ラ多少高尚ノ方向ニ進メリ

七月札幌農業事務所々轄札幌博物場及札幌工業事務所々轄製物試験場ヲ改テ本校ノ所轄ニ付セラル爾來其授受ヲ了シ尚旧ニ依テ其事務ヲ処理セリ

職員ハ校長幹事ノ外教員農學及植物學ニ一名生理及英文學ニ一名皆米國人ヲ以テス數學及土木學ニ教授一名兵學ニ助教一名予科ニ四名農學及植物學ニ各一名總計十名トス化學教員ハ本年一月病歿以來米國ヨリ招聘ノ允可ヲ得テ既ニ照會スト雖トモ未タ新任ノモノ到着セス

七月生徒ノ課程ヲ經テ卒業セシモノ十七名ニシテ皆農學士ノ學位ヲ授与セリ他ニ同級ノモノ尚三名アリシカ本年ニ至リ病歿ノ為定期ノ試験ヲ受クル能ハズ

演武科ハ開校ノ初ヨリ之ヲ課程ニ加ヘ主トシテ歩兵ニ関スル技術ヲ授ケテ生徒ノ健全ヲ養ヒ兼テ国家有事ノ日能ク士官タルニ任ヘシメントノ目的ナリシカ昨年改正ノ徵兵令第十二条ニ於テ歩兵操練科

卒業証書ヲ所持スルモノハ現役中帰休ヲ命スルコトアルヘシトノ明文ニ拠リ本校ニ於テモ経伺ノ上本年卒業生ニハ學位狀ト共ニ仮ニ該証ヲ授与セリ

本科初年級ハ入学ノ生徒ハ十六名ニシテ内四名ハ予科ヨリ進ミ九名ハ東京ニ於テ募集シ三名ハ當地ニ於テ新ニ入学セリ予科生徒ノ入校ハ廿一名ニシテ退校ハ三名トス

生徒現員ハ本科第四年級ニ十二名第二年級ニ九名第一年級ニ十六名小計三十七名内式名ノ外皆貸費生トス予備科ハ第一級ニ十三名第三級十四名第四級ニ十三名計四十名皆私費通學生ニシテ本科ト合計七十七名トス外ニ二名ノ貸費研究生ヲ置ク

四月上旬博物見本採集ノ為助教一名ニ生徒三名ヲ付シ後志国高島郡ニ派出シ四日間ニシテ海中ノ動植物ヲ採取セシメ有花植物六種海草四十九種海産動物見本四十種ヲ得タリ

植物採集ノ為助教ヲ根室地方ニ派出シ六月九日當地ヲ発シ胆振日高十勝釧路海岸ヨリ根室ヲ經テ北見国常呂郡釧路沼ニ至リ再ヒ前路ヲ經テ八月廿四日帰任セリ此巡回中採集シタル押葉ノ種類ハ六百三十九種ニシテ八十四科三百二十二属ヲ含ミ就中本校従前ノ押葉七百九十四種中ニ未タ見サルモノ三百九種又世上極メテ稀少ノモノ及本邦植物誌中ニ未タ嘗テ見ザル所ノモノ凡ソ八十八種アリ押葉ノ總數二千五百零四個ヲ得タリ

此巡回中札幌地方ニ生セザル植物ニシテ多少ノ効用ヲ有スルカ若クハ容易ニ得難キモノト認ムルトキハ其根或ハ種子ヲ採集シ尚其性質形狀ヲ詳ニ研究セシカ為メ温室附屬地ニ培植セリ即チ根百有余種ニシテ種子ハ其季節ノ早カリシカ為ニ僅ニ十六種ニ過キズ

此他余暇ヲ以テ博物學參考ノ為運搬ニ便ナルモノヲ撰テ採集セシモノ動物見本十四品(内貝類十一品)化石六品食土及地質見本六品礦物三品古物(網走穴居跡ニ於テス)七品トス

又札幌附近ニテ採集及教員生徒等ヨリ納付セシ植物押葉凡三百五十種虫類三百五十種ニシテ外ニ日光植物百二十九種モ亦助教ノ寄附ニ係レリ

教師官舎新築ノ為札幌舊草園ノ内千八百坪ヲ農業事務所ヨリ受取り又同事務所官舎建築ノ為本校屬園ノ内式七百坪ヲ同所ニ交付シ又札幌県ヨリ監獄署屬地ノ内本校屬園中ニ接セシモノ九千八百八十坪ヲ領受セリ

本校從來比較解剖室無カリシヲ以テ本年五月之ヲ新築ス建坪十三坪半ニシテ兩室ニ分チ一室ハ解剖用ニ充テ他ハ組織學顯微鏡用ニ供セリ

教師官舎ハ旧開拓使廃止ノ際尽ク札幌県庁ノ所有ニ帰セシヲ以テ直ニ同県ヨリ借用之上之ニ充テシカ本年新築ノ允可ヲ得テ温室地内ニ一戸舊草園内ニ二戸ヲ建築セリ

昨年十二月以降受付セシ公文一千五十九件ニシテ内達四十六件稟議百一件指令済十六件移文五百五十五件校長ニ於テ決判セシモノ三百四十事件トス

本校屬園本年事業ノ大要ハ昨年ニ異ナルコトナシト雖氣候其順ヲ得ス園圃ノ宿雪融解スル昨年ニ比スレハ一週余日ヲ後レ随テ耕播放牧ノ業皆ナ遲延セリ加之降雪頗ル早クシテ十一月中旬ニ及ヒ收穫未タ終ラサルニ園圃已ニ白雪ヲ布キ放牧ヲ止ムル例年ヨリ早キコト殆ント三週ニ至リ要スルニ稼穡ノ期節甚タ短縮シ且ツ春秋ノ期節ニ於テハ陰雨連統シ土地濕潤ナルヲ以テ作業ノ不便淺ナラス為メニ勞力ヲ徒費シ損耗隨テ多ク剩ヘ家畜飼料ノ如キハ舍飼ノ時期殆ト一ヶ月ヲ増加セシヲ以テ予想外ニ多量ノ飼料ヲ消費シ前後頗ル困難ヲ極メタリ然ルニ植物ノ概況ハ結果良好ニシテ其収量ハ昨年ニ比スレハ都テ二三割ヲ増加ス栽培反別ハ五拾三町五反八畝ニシテ播種ハ四月下浣ヨリ六月上浣ニ至リ收穫ハ八月上浣ヨリ十一月中旬ニ至ル且ツ防風ノ如キハ明年解雪後ヲ俟テ採取セントス根菜類ハ播種ノ後ニ至ルモ仍ホ大氣寒冷ニシテ最初ハ發芽不良ナリシニ漸次陽氣ニ向フニ隨テ發育シ一時成長シ乾濕適度ヲ得テ頗ル好結果ヲ呈セリ品位モ亦優等ニシテ就中蒸菜ノ如キハ未曾有ノ收穫ニシテ即チ一反歩ニ付一万六千四拾八貫目許ヲ得タリ

穀類ハ燕麦及玉蜀黍ノ二種ニシテ燕麦年々銹病ノ害ヲ被次第ニ蔓延

シテ甚シキニ至ルヲ以テ方ニ英國ヨリ健全ノ種ヲ購入シ之三代ヘシトス玉蜀黍ハ頗ル多量ヲ收穫セリ然レトモ登熟ニ適スヘキ熱度ニ達スルノ日子甚タ短ク殊ニ晩秋ニ至リ過湿ナリシカ故ニ成熟スルモノハ僅カニ全量ノ三分一ニ居リ品位劣等ニシテ貯蔵ニ堪ヘス蓋シ該種子ハ米國ニ於テ最モ晩熟ノモノヲ輸入シ注意怠ラスト雖トモ年々未熟ノモノ多ク随テ損耗モ亦尠ラス終ニ本年ノ如キ著シキ影響ヲ及スニ至レリ故ニ将来尚研究シテ適度ノ種子ヲ養成スルハ目下ノ急務ナルヲ以テ本年ヨリ一層嚴密ノ採種法ヲ施セリ蓋シ玉蜀黍ハ牛馬ノ飼料トシテ最必用ノモノナレバナリ

牧草地ハ十三年以降播種セシモノニシテ其反別ハ四十八町七反式畝ナリ刈草ハ七月中浣ヨリ始メタリ其收穫ハ少キニ非レトモ二番刈ニ當リ降雨連綿トシテ其圃間ニ暴露スルコト久シキニ至リ充全ノ乾製ヲ成ス克ハス一番刈ニ比スレハ品質善良ナラス
前陳ノ收穫物ハ多クハ飼料ニ供給スルト雖種子類其他二三ノ蔬菜ハ本園ノ都合ヲ計リ冗余アルモノヲ沽却セリ

昨年英國産小麦四種ヲ輸入シ其適否ヲ試験セン為メ当秋播種セシニ由リ其結果ハ明年ヲ俟テ報告スル所アラントス
害虫ハ稍地蚕及蛆ノ發生スルモノアルモ敢テ其害ヲ視ス且ツ蝗虫ノ如キハ園内ニ於テハ絶テ其影ヲ見サリシナリ

植物栽培ノ反別及収量ハ別表ニ審ナリ

品 目	反 別	収 量
燕 麥	一二、四六	一九〇、二八
王 蜀 黍	二二、六〇	六一七、三〇
蕃 瓜	六、八〇	一〇八、〇〇
茶 菜	六、四〇	一一二、九七、六〇
蕪 菁	六、四〇	一三〇七、四〇
胡 蘿 蔔	二、三〇	六三二、六〇
玉 葱	二、三〇	一四八三、二〇
防 風	四、八	未 詳
甘 藍	一、一〇	七二〇、〇〇
南 瓜	七、五	二二八〇、〇〇
馬 鈴 薯	八、〇	一五四八、〇〇
牧 草	四六、三五	四七八五、〇〇
種子 拾五種	六、六	一〇六、六二
牧草種子三種	一、二二	一六七、一六
計	一〇一、一四	八〇七、五八
		一八五九三一、五

表ニ記載スル外野草燕麥幹及玉蜀黍幹凡四万八千貫目ヲ收穫セリ

家畜ハ牛馬豚ノ三種ニシテ牛ハ現在頭数九拾貳頭アリ皆ナ健全ニシテ成育極メテ佳ナリ繁殖ハ十分ノ九、五ノ割ニシテ其満數ニ達セサルハ出産後直ニ死スルモノ尙頭アルカ故ナリ本年孳尾スルモノ三拾貳頭ニシテ此内六頭ハ已ニ産出セシヲ以テ尙ホ式十六頭ノ増殖アルヘシ交接ハ二三回ヲ經テ孕胎スルモノ多ク五六回ニ及フモノハ甚タ稀ナリアキシヤ種ハ本園牧牛ノ主眼ナレハ公私ノ請求甚タ多シト雖トモ敢テ之レニ応セズ目下專保存シテ繁殖用ニ供ス唯牝牛ノ余分アルヲ沽却スルノミ

明治十一年米國ヨリ購入シタル胤牛ハ標悍ニシテ屢人ヲ傷クルノコトアリシヲ以テ取扱方ニ於テ深ク注意セシカ本年ニ到テ倍猖獗ヲ極メ更ニ人ヲ傷ケ到底駕御ノ見込ナキヲ以テ已ヲ得ス銃殺セリ

昨年来國ニ注文シタル胤牛ハ本年七月ニ到テ到着セシカ其血統ハ從來ノ種類ト疎遠ノモノヲ撰ヒシヲ以テ将来倍良種ノ蕃植セシコトヲ期シテ待ツヘキナリアキシヤ雜種ハ漸次増殖シ二回雜種ハ既ニ數頭ヲ得タリ本年産スルモノ、如キハ其骨格能ク備リ大ニ改良ノ徵ヲ視ルヘシ

冬飼ハ年々施行スル如ク二週毎ニ家畜ノ全体ヲ秤量シ此レニ応シテ食料ヲ増減シ滋養分ノ過不足ナカラシム又牛欄ヲ改造シ食料損失ヲ防キ便利モ亦旧ニ倍セリ

放牧ハ六月上浣ヨリ十一月初浣ニ亘リ乳牛ハ牧草地ヲ画シテ牧養セ

シメ朝夕兩度舎内ニ追込ミ搾乳ニ便ニス其他ハ胤牛及耕牛ヲ除クノ外都テ荒蕪地ニ放牧セシニ克ク肥胖シ一頭モ健康ヲ害フモノナシ本年売却ハ十五頭ニシテ内繁殖用トシテ売却スル者五頭屠殺拾頭ナリ病畜ハ僅カニ膨脹胃衰弱蹄炎等ニ罹ルモノ五六頭アリ皆ナ輕症ニシテ容易ニ平癒セリ唯肩胛關節転戾ニ罹ルモノ尙頭遂ニ痼疾ニ陥リ全治セス

現在頭數ハ即チ左表ノ如シ

種目	牝	牝	計
アキシヤ種	一二	二三	三五
短角及雜種	一六	一九	三五
雜種	九	九	一八
南部種	四		四
計	四一	五一	九二

牛乳搾乳高ハ百五拾九石九斗六升五合ナレトモ短角及雜種ニテ平均五六頭ハ始終仔牛ヲ付ケ哺乳セシメ搾乳セサルカ故ニ其量計カナラサレトモ此レヲ計算スルニ至ラハ恐ラクハ貳百石ニ近キノ収量アルヘシアキシヤ乳牛ハ一ヶ月十二頭ニシテ平均拾貳石九斗四升即一頭ニシテ尙石八升ヲ出シ最モ盛ナル時ニ會シテハ一日一頭ヨリ九升ヲ搾乳セリ

生乳ノ需用ハ日ニ燃燬ニシテ売却スル數量ハ凡ソ百三拾石此代金一

千九百五拾円ナリ即チ本園収入ノ過半ヲ占ム
収量ハ別表ニ詳カナリ

種 目	頭 数	収 量
アキシヤ種	一二	一五五 三二八
短角及雜	八	二、八七二
雜 種	五	一、七六五
計	二五	一五五、九六五

生乳売却ノ冗余ヲ以テ牛酪ヲ製造セシ數量八百七拾八斤ナリ牛酪モ亦タ需用多ク当地ニ於テ三百斤余ヲ売却セリ嚮キニ東京ニ品評ノ為メ回送セシニ大ニ良品ノ声価ヲ得タリ明年ニ至レハ乳牛數頭ヲ増殖スルニ由リ其売却ノ余分ハ牛酪ニ製シ汎ク需用ニ応センコトヲ企図ス

馬ハ現今耕用拾式頭繁殖用雜種牝三頭南部駒牡牝頭其他漸次ニ耕用ニ充ツヘキモノ七頭ニシテ總計貳拾三頭アリ且ツ孳尾スルモノ牝頭ニシテ売却スルモノ雜種牡三頭ナリ

豚ハ極メテ健康ニシテ蕃殖モ亦速ク出產スルモノ三拾五頭病死スルモノ僅ニ貳頭ナリ其他野獸ノ害ニテ死スルモノ五頭ナリ

本年始メテチエスタル、ホワイト二回雜種ヲ産シタルニ成長頗ル迅速ナルノミナラス骨格善良性柔順ニシテ克ク肥満スルノ徵アリ一回雜種トハ霄壤ノ差異アリ是ヨリ益々高等雜種ヲ繁殖シ普ク種用ニ供

セントス

チエスタルホワイト純粹ハ百万保護ヲ加フルモ孕胎セス殊ニ牝頭ハ脊髓骨ヲ傷害シ遂ニ施治ノ効ナクシテ死セリ
頭數ノ詳細ハ即チ左表ニ示ス

種 目	頭 数
チエスタル、ホワイト種	二
同 一回雜種	一四
同 一回雜種	四二
計	五八

火腿ハ三百斤余ヲ製造シ多ク当地ニ於テ売却ス其他豚油及牛油若干ヲ製造セリ

曩ニ火腿ヲ函館ノ商沽ニ品評セシメシニ製法宜シキヲ得ルト雖トモ価高直ナルヲ以テ到底舶來品ヲ買フニ如スト云フ畢竟方今ハ製出微々タルカ故ニ自然高価ヲ免レスト雖トモ多ク製スルノ日ニ至レハ舶來品ニ匹敵スルノ廉価ヲ以テスルモ収支相価フハ必定ナリ

過湿著シキノ地ニ於テ排水渠ヲ設ルコト七百間余其他荒蕪地中沼沔泥沢多ク放牧スルニ不便ヲ感スルノ地ニ溝渠ヲ通シ排水スルコト凡ソ貳千間ナリ

本園ニテ受付セシ公文ハ總計三百廿三件ニシテ内校長ノ決判ニ係ルモノ稟議百二十八件届二十件移文往復百七十五件トス

〔別紙〕

願書

私共儀入校以來月々拾貳円ツ、拝借修業罷在候処其支出等實際ノ決算ハ如何相成居候や承知不仕候而ハ往々不便之廉モ有之候得者此度右支出帳簿拝見致度此段御許可奉願候也

明治十七年十二月廿六日

貳年生総代 谷千代太郎[㊟] 渡辺勇太郎[㊟]

初年生総代 牟田武一郎[㊟] 藤村信吉[㊟]

札幌農学校校長森源三殿

〔農一七六〕

五七三 歩兵操練科卒業証書授与に付内達

北校庶第一二〇号

其校本年学第三十二号伺書指令ニ基キ今度農学士小野兼基外式名へ歩兵操練科卒業証書授与之儀学第四百四号ヲ以テ伺出ニ候処右ハ最前指令ノ如ク書式製定之見込ニテ文部省并東京大学等へ照会候へトモ歩兵之一科ハ未タ其課程モ決定セザル趣ニ有之就テハ当分ノ内仮証授与見合セ生徒中徴兵適齡ノ者へハ徴集猶予ヲ得ル為メ下付スヘキ学科証明書式別ニ可相達答ニ候間前陳ノ旨趣御説諭願書ハ一先本人へ返戻可被致此旨及内達候也

明治十七年十二月廿七日

安田管理局長印

森札幌農学校長殿

追テ別紙学第四百四号伺書ハ其儘及返戻候也

付 小野兼基外二名に歩兵科卒業証書授与之儀伺

学第四百四号

明治十三年七月卒業 小野兼基

同 十四年七月卒業 南鷹次郎

同 十五年七月卒業 梶山清利

本校歩兵科之儀ハ明治十一年ヨリ新ニ教科中ニ相加へ爾來連綿実行致来候得共從來卒業之生徒ニハ該科卒業証書ハ授与不致処今般右三名ヨリ別紙之通り該証授与之儀願出ニ付本年学第三拾貳号伺済ニ基キ其卒業年月ニ遡リ御授与相成可然哉本人共請求書并証書式相添へ此段相伺候也

明治十七年十二月九日

札幌農学校校長森源三

管理局長安田定則殿

〔別紙一〕

〔朱書〕
〔写〕

歩兵操練科卒業証御授与之儀願

先般徴兵令御改正相成候ハ長次男ヲ論セス全国ノ壮男ヲシテ銃鎗練

兵ノ術ヲ心得シメ一朝事アラバ全国ヲ挙テ兵タラシムルノ御趣意ニ
外ナラサル義ト奉存候私共儀多クハ徴兵丁年經過致候者ニ候得共幸
ニシテ歩兵操練科ノ設アル本營ヲ及第致シ既ニ練兵術ヲ心得候身ニ
候得バ後日事アルニ際シ徴ニ応シ得ル義ニハ候得共練兵修業ノ確証
之レナキヨリ或ハ兵卒視セラル、ヤノ掛念モ有之且本年ノ卒業生ヘ
ハ歩兵操練科卒業証書御授与相成候義モ有之旁私共ヘモ右御授与被
成下度此段奉願上候也

明治十七年十月

小野兼基

南鷹次郎

相山清利

札幌農学校々長森源三殿

〔別紙二〕

生徒

何 某

歩兵操練科卒業候事

年 月 日 印(捺印)

〔農二三四〕

五七四 植物園設置の儀伺

北校管第八号

学第百拾三号

本校温室地内ニ於テ從來百余種ノ草花ヲ栽培シ生徒ノ参考ニ供シ居
候処本草学充分研究候ニハ元ヨリ不足ニ付追々種類増殖漸ヲ以テ其
規模ヲ拡張致度候得共同所ハ地積狭小ニシテ到底実施致シ難ク然ル
ニ附属博物場地内ハ喬木蕃生又流泉ニ接シ地形モ亦高低乾湿一ナラ
ス各種ノ植物ヲ培養候ニハ必適ノ地ニ付之ヲ植物園ト定メ種類ニ応
シ予メ区画ヲ為シ此後蒐集ノ分ハ総テ同地内ニ栽培致度此段相伺候
也

明治十七年十二月廿七日

札幌農学校校長森源三 印

管理局長安田定則殿

〔朱書〕

〔伺之趣博物場地内ニ於テ植物試験ノ義ハ聞届候事

明治十八年一月二十六日

管理局長安田定則 印

〔農一三六〕

五七五 駒場農学校の教科調査結果報告

復命書

小官今般滯京被申付札幌農学校教科上ノ数件ヲ駒場農学校ヘ照会調
査ヲ了シ復命スル事左ノ如シ
一 毎週及每学期各級実習時之事

右ハ初年生ニ在テハ全ク学業ヲノミ教授シ第二年生ニ至リ一週日

ニ式度ノ実業ヲ授クルヲ則トス

一 各級試業之種類之事

右ハ前ニ陳フル如ク第二年生ニ於テ普通農業ノ如何ヲ教ヘ第三年ニ至リテ牧畜ノ管理法ヲ生徒自ラ該校ノ家畜房ニ就テ之ヲ試ム假令ハ畜類ノ運動并ニ体量ノ輕重ヲ見而シテ后チ飼料ノ滋養分ヲ驗シ彼は相ヒ適スルノ飼料ヲ配分シ牧夫ニ之レヲ与ヘシム

一 生徒ニ土地ヲ分賦シテ試験セシムル哉否之事

右ハ第三年生ノ時新説ノ出ルニ從ヒ其説ニ由テ之ヲ試ム故ニ其植物ノ如何ニ因テ土地ヲ与ヘルニ広狹アリ

一 生徒ニ農夫ヲ使役セシムル哉否之事

右生徒ニ使役セシムル如キコトハ致サズ

一 生徒試作ノ結果ハ報告ヲ出サシムル哉否之事

右ハ第三年期試作ノ節各自ノ欲スル処ヲ試験セシメ其植物生育上ノ形況ヨリ結果マデヲ筆記シ置キ之ヲ報告スルノ則ナリ

一 実習上ノ勤惰ハ如何ナル方法ヲ以テ賞罰スル哉否之事

右ハ全ク未タ其方法ヲ設ケズ

右前件ハ管理局長へ上申致置候処此段更ラニ上申候也

明治十七年十二月

四等属吉田清憲^印

札幌農学校校長森源三殿